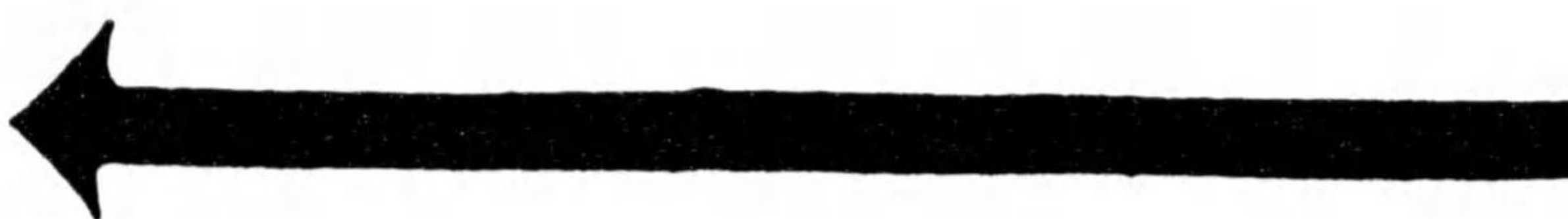


313
a
49a

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



エト 9Y-72

特 15
8/14

明治三十三年九月發行

石津可輔譯
讚井逸三校

國會汎論

獨逸法律博士
ブルンチユリー氏原著

西氏

藏版

(a)
313
49a

瑞西國人ブルンチユリー氏著
國會汎論下卷
立法機關

石津可輔 譯
讚井逸三 校

第七款 立法全體ノ權

立法體トハ全國民ヲ精撰シ之ヲ縮メテ頭部ト支節ニ作り
倣シタルモノニシテ即チ全國民中ノ優出スルモノタリ而
シテ此優出スル輩ヲ以テ國民ノ物體ヲ包括シ其物體ヲ表
示スルモノナルカ故ニ立法體ノ權ハ其内部ニ充實シ全國
民ノ權利ヲ保有スト謂フヘシ然リト雖ヒ是ニ由テ專制無
限ノ權威アリト速了スヘカラス然ルニ「ブラクストン」氏ハ
此事ヲ論シテ英國巴理門ハ實ニ無限ノ政權アルモノナリ
ト發言セリ而テ當今國家學ニ從事スル者モ亦往々其說ヲ

二 唱和スル者アリ蓋シ其意ノ在ル所ヲ窺ヌルニ國家專制ノ
權柄ハ實ニ缺クヘカラサルノ要具ナリト思惟セシ乎若ク
ハ勢ヒ得テ免カル、能ハサルモノナリト推考セシ乎又ハ
獨リ之ヲ一個人ノ手裡ニノミ掌握セシムルヨリハ寧ロ所
謂立法體ニ附與スルキハ則チ其害尠ナフシテ其利夥カル
ヘシトノ速了ノ見解ニ過キサルヘシ是亦思ハサルノ太甚
シキノミ抑モ當今ノ國家ハ固トニ人道ニ基キシモノナリ
試ニ人ト人ノ關係ニ於テ專制ノ權威ハ用ヒテ可ナランヤ
ト問ハ、必ラスヤ云ハンは決シテ人道ノ許サ、ル所ナリ
ト既ニ人道ノ許サ、ル所ナルキハ何ソ特リ國家ニ於テ之
ヲ用フルヲ許スヘキノ理アラシヤ巴理門最上ノ國權ト
雖也英國國民トノ本然ノ關係、他ノ有權物按スルニ司法等ヲ云フノ現

設、巴理門ヲ要スル所ノ國政ノ規定、其商議決定ノ憲法ニ準
スヘキノ體裁等ニ對シ悉ク德義ト法理ノ制限ヲ存シ以テ
其放肆濫用ヲ防遏制限セサルハナシ而テ今右ニ列示スル
中ニ在テ其制限法ノ形式ヲ存スルモノハ一般普通ノ認許
ニ係ルモノナリト雖也獨リ立法上ニ關スルモノノミハ巴
理門ニ於テ其無限權ヲ有シテ可ナリトス之ヲ要スルニ國
家組織中巴理門ノ爲メニ管理サル、乎若クハ巴理門ト同
職務ヲ執ル所ノ一體一機關アルノ規則ナシ且ツ巴理門カ
有スル所ノ立法ノ權柄ハ必ラス國法上ニ於テ最高權タル
ヲ認メサルヲ得ス又其他ノ國家ノ諸官廳及人民ヲシテ
秩序アル道理ニ背行スルヲナカラシムル所ノ職務權柄ナ
リト謂ハサルヲ得ス然リト雖也巴理門ニシテ國民トノ關

三

四 係ヲ蔑視シ漫リニ眞法ニ背戻シテ無限ノ暴權ヲ實行スル
 一アルキハ其權柄濫用ノ積因ハ非常ニ自由人民ノ激動反
 亂ノ結果ヲ惹キ起スニ至ルヘシ若夫斯ノ如キ一アルキハ
 則チ所謂巴理門ノ無限權ハ決シテ許スヘカラサルノ方便
 タルヲ明晰タリ
 斯ノ詐僞ナル上下兩議院ハ竟ニ國王ノ爲メニ英國巴理門
 ノ憲法ヲシテ全廢ニ附セラレ立法權ハ專ラ國王ノ掌握ニ
 歸スルノ孽ヲ生スルヲ慮ラサルモノナリ英國人民ニシ
 テ未ダ全ク腐敗スルニ至ラサル以上ハ巴理門ヲシテ斷シ
 テ如斯ノ所業ニ陷ラシムルヲナカルヘシ
 立法體ノ作業ハ主トシテ左ノ方向ニアルモノトス
 第一 國家永續ノ秩序ヲ確定シ國家憲法ヲ作り之ヲ添削

シ之ヲ更改シ千載不拔ノ建國制度(按スルニ制度トハ立法行
 政司法三大權ノ一ヲ云フ)
 ヲ興廢スル等之ヲ約言スレハ機關タル立法權ヲ囊括スル
 モノナリ
 右ニ述フル所ノ件ハ當今各國ノ憲法ニ於テ殆ント之ヲ認
 可セサルハナシ然ルニ北亞米利加ニ在テハ其同盟憲法ノ
 添削ヲナシ若クハ更改スルヲアルキハ臨時ニ撰舉シタル
 一ノ特別會議ヲ開設シ議院ト共ニ之ヲ議決セシメ瑞西各
 州ニ於テハ其憲法ヲ更改スルヲアルキハ特ニ其更改ノ爲
 メニ憲法會議ヲ開ヒテ之ヲ議定セシメ例會ニ在テハ却テ
 之ニ與カルヲ得ス抑モ憲法ニ關スルノ事タルヤ立法中
 一大至要ノ事業タルヲ以テ其鄭重ヲ要スルヲ善シトスル
 モ之レカ爲メニ特別ノ機關ヲ設ケ立法體ト共ニ併立セシ

五

六

ムルニ至テハ國家ノ機關ヲ紊リ容易ニ國家ノ秩序ヲ錯雜
スルニ至ルノ恐レアリ

第二 立法體ハ其他ノ諸關係ニ於テモ亦立法ニ關シテハ

充分其權ヲ施行シテ公法並ニ私法ヲ整理スルモノトス

法律ゴセツ(ローア)ハ立法體自己ノ製造ニ係リ布達オルドナンス及ビデクレイ

ハ之ニ反シテ政府若クハ其他ノ行政廳ノ頒布ニ係ル斯ク

機關上兩權ノ相對立スルハ則チ法律ト布達ノ差別ヲ生ス

ルノ基ヒナリ而テ此ノ布達ナルモノハ行政官ノ志想ニ出

テ彼ノ法律ナルモノハ立法官ノ志想ヲ示ス是ヲ以テ法律

ハ立法權ヲ有スル所ノ諸輩(國王、議院、會議等ノ如シ)ノミニ

テ相協議シタル後チ法律タルノ名稱ヲ附スルモノトス之

ヲ要スルニ人民代議士ノ決定ヲ經サルモノハ之ヲ法律ト

此布達ノ
因位

稱スルヲ得ル能ハサルモノナリ

法律ノ權力タルヤ尙ホ布達ノ上ニ在ルヲ判然タリ如何ト

ナレハ法律ハ全國家總代議士ノ志想ニ出ツ而テ布達ノ權

力ハ其基チ公權ニ取ルモノナルヘシトハ雖ヒ唯タ國權中

一部ノ權力タルニ過キサルカ故ナリ是ヲ以テ布達ノ働作

ハ必ス法律上ノ限域内ニ在ルモノナレハ決シテ法律ト相

背馳スルヲ許サス此理由アルカ故ニ立法ハ其運歩アユミヲ以

テ能ク布達領地ノ境界ヲ定メ及ヒ之ヲ減縮スルヲ得ルモ

ノナリ

法律ト云ヒ布達ト云フ其要旨ニ至テハ雙方ノ抵觸ヲ來ス

可カラサルモノタルハ勿論憲法ニ關係ヲ有スル至要至切

ノ事件ハ多クハ獨リ立法ノ整理スルコトニ係リ而シテ布

七

八 達ヲ以テ定ムルヲ能ハサルモノナリ今左ニ其至要至切ノ

モノヲ掲載セシ

(イ) 國家至要ノ建國制度(立法行司法)及原法

(ロ) 一般ノ私法及民事訴訟法

(ハ) 刑法及治罪法

(ニ) 庶租稅ノ徵收及國財ヲ料理スル原則ヲ定ムルヲ

(ホ) 兵役義勢ニ關スル原則

右ニ掲載スルモノハ立法ノ整定ニ係ルヲ以テ布達ニ在テ
ハ之ヲ尊崇シ且ツ之ニ據ツテ其區域ヲ制限セラル、モノ
トス

然リト雖モ又法律ニシテ布達ヲ要スルノ場合アリ一ツハ
其實施スルニ就テ要用ナルキ一ツハ法律ノ缺漏ヲ補ヒ又

ハ殊ニ事件ニ由テ屢々更改ヲ要スルモノ等ハ宜シク先ツ
布達ニ依ラサルヲ得サルヘキ是ナリ

右ノ外布達ニシテ例ヘハ國財行政、警視ニ關係スルヲ及ヒ
兵事ニ關スル規則等、如キ國家ノ方向ニ關スルモノ數種
アリ但シ主トシテ法律ニ依テ整定セラレヘキ所ノ全國民
ニ關係ヲ有スルモノニハ之アラサルモノト了知スヘシ○
其他若シ目下ノ急施ヲ要スルヲアリ假リニ規定シテ其整
理ヲ驗ミルヲアリ此時ニ當ツテハ輒スク動シ得ル所ノ布
達ヲ以テスレハ其實効ヲ奏スルヲ更ニ平常不拔ノ法律ア
ルニ優レルモノトス

九 一般ノ布達ニテ立法ニ密着ノ關係ヲ有スルモノハ立法體
ノ監督ニ從フモノト定メタル憲法アリ敢テ不適應ナリト

謂フ可カラス
 右ノ如ク立法ト行政トノ對立ヲナサシメタルハ憲トニ近
 代ノ事ナリ而テ或ル人民ニ在テハ甚シク立法ノ區域ヲ擴
 張シテ布達ノ區域ヲ狹隘ニセシメテ之レ務ムルモノアリ
 是他ナシ一ツハ政府ニ於テ專横放肆ノ所業アラソフテ掛
 慮スルト一ツハ政府ノ働作ヲ妨ケス且ツ立法體ヲシテ行
 政管理内ニ混淆錯雜セシメカラソフテ欲スルニ出テ即チ
 公安ノ裨益ヲ圖謀スルニ外カナラスト雖モ其後段ノ意ハ
 前段ニ述フル所ノ掛慮ト全ク相反對スルノ注意ナリト謂
 フヘシ此注意ニ關シテ起リタル兩權間境界ノ規定ヲ考ル
 ニ英國ニ於テハ法律ヲ用フルヲ其度ニ超過スルヲ以テ其
 煩雜極リナキヲ見ルナリ而シテ佛國ニハ一般ノ原則ヲ定

ムルヲニノミ法律(ロアー)ヲ用ヒ一般ノヲニ非サルモノハ
 愈ナ布達「オールド」ナンス「若クハ「デグレ」」ヲ用ヒタリ獨逸
 ニテハ實際右兩國ノ方法ヲ折衷シタルモノ、如ク須要ニ
 シテ且ツ永久ナキ期スルモノハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ輒チ
 更改スルヲ得ヘキ各部ノ規則ハ布達ヲ以テス
 中○古ノ初期ニ在テハ唯ダ古法ト新法ノ別アリシノミ而テ
 種族院ニ於テ決定スルモノハ新法ノミニテアリキ
 第三○當今ハ殆ント各國モ租稅賦課ノ認許權ハ全ク之ヲ
 立法官ノ權トナシタリ又ダ工部ニ關シテ取立タル金額使
 用方ヲ決セシメ又ハ國債ヲ募ル等國家ノ信任ヲ使用スル
 用(愚按)スルニ紙幣又ハ公債証書ヲ發行スルヲ得ルハ國家
 使(愚按)スルニ信任ヲ以テスルニ非レハ能ハス故ニ信任ヲ
 使用スルノ認可ヲモナサシムルヲ屢々アリ

是等ノコトハ實際立法體ノ作業ニ於テ須要トスル所ノ一ニ
 居ルモ羅馬ノ民院ニ在リテハ之ニ與カラス僉ナ一官府ト
 元老院ノ權柄ニ委托セシモノナリ日耳曼人民ニ在テハ否
 ラス此等ノ關係ハ主トシテ之ヲ代議士ノ權内ニ在ラシメ
 タルコト其來ル久シ但日耳曼人ニテモ最初ハ種族ノ決定ニ
 係ルモノハ唯ク新稅徵收等ノ事ニ過キサリシカ後ヲ始メ
 テ人民代議士ニ於テ租稅認可權ヲ有スルノミナラス總テ
 ノ國財ヲ歲出入豫算表ニ規定スル事ニ參與シテ其意見ヲ
 陳述スルノ權ヲモ併有スルニ至レリ

第四 外國トノ國約ヲ決定スルノ一事ハ當今ノ憲法中儘
 マ之ヲ立法體ノ權限ニ屬セシメスシテ政府ノ權限ニ付與
 セルモノナリ蓋シ此事タル最モ全國民ニ於テハ永久ノ大

關係ヲ有スルモノナルヘケレ共若シ之ヲ立法體ニ於テ公
 ケニ評議スルルキハ則チ決定盟約ノ困難ヲ増シ更ニ國家ノ
 窘迫危害ヲ來タスカ故ニ外國トノ關係ニ於テ國家ノ功益
 チ圖ラントスルニハ寧ロ中央大政府ニ於テ宜シク秘密ニ
 之ヲ決議整定スルヲ以テ得策トスルノ愈レルニ如カサル
 ヘキノ意ニ出ツルモノナルコト判然タリ

往古ニ在テハ之ニ反スルノ意見ナリシニ由リ國約ハ疑件
 ナク之ヲ實行セシカ爲メニ人民ノ決定ヲ要スルノ風ヲナ
 セリ中古ニ在テモ亦々屢々種族ノ評議若クハ認可ヲ要セ
 シコトアリ

近代ノ憲法ニハ國約ニシテ一ツハ國家ノ擔保ト國民ニ密
 附ノ關係ヲナスコトニ基ヒスルモノ(按スルニ貿易條約一

ツハ法律ニ於テ整定スヘキ事件ニ關係ヲ有スルモノハ代議府ノ許諾ヲ要スルモノトセリ又タ憲法ニ於テ條約ハ概シテ之ヲ立法體ノ權限内ニ附與セシモノアリ佛國瑞西國等ノ如キ是ナリ

立法全體ノ權終

第八款 立法體諸部ノ權

第一 立法體ノ權限内ニ屬スル所ノ一事件ヲ記載(按スルニ按スル)ト目スルヲ提示シテ問題即議案ヲ起シ之ヲ告知スルカ爲メニ記載スルヲナリスルノ權ハ其體ノ諸部員(按スルニ按スル)ト云カ各議ハ當然皆ナ之ヲ有スルヲ以テ一般ノ通則トス而テ所謂記載ノ事タルヤ各國其制ニ異同アリ乃チ請願トナリ依頼トナリ或ハ命令トナル是ナリ而シテ請願トハ法律中立ノ前備即議員カ立法ノ議題ヲ採用シテ直チニ議案ニ附セラレシテ政府ニ請願スルノ主義ニシテ猶ホ獨逸ニテ千八百四十八年間ニ通常議院ヨリ之ヲ國君ニ差出セシカコトキチ云ヒ又依頼トハ某事件ヲ議事ニ附セシテ倚賴スルノ意ニシテ即チ英國ニテ國王勅使ヲ兩院ニ遣ハシ亞米利加ニテ大統領使節ヲ議院ニ遣ハシ此事ヲ

ナスカ如キヲ云ヒ命令トハ報告セシメテ命シ及申立トセ
 ノヲ命スルモノヨシテ即チ北亞米利加ノ議院ハ委員ニ
 致シ瑞西國大會議ハ政府ニ致スカ如キヲ云フナリ之ヲ要
 スルニ右記載ノ效ハ法律申立ヲ議場ニ致シ議場ニ説明ス
 ルヲ所謂イコチヤチーフ（按スルニ茲ニイコチヤチーフト
 ナ持出スノ）ノ施行ニ歸着スルモノナリ抑モ國制ニ於テ立
 法體ニ差出スベキ緊要ナル法律ノ申立（按スルニ起草）ハ主
 トシテ國君若クハ其政府ノ職掌トスルモノ多キニ居ルハ
 是レ當然ノ理ナリ乃チ羅馬ニ在テハ初メ一官府ニ屬スル
 ノ事務タリシカ後ニ皇帝ノ職務ニ歸シ中古ハ諸國トモ國
 君ノ任スル所ト定メタリ現今モ亦草案ハ政府ヨリ之ヲ出
 スノ規則トナリ瑞西共和國モ尙ホ且ツ近頃ノ國家學千八

百三十三年來ニ於テ既ニ之ヲ立法體職掌ノ一部ナリト認
 ム可ラサルヲト論定シ又千八百五十二年「ナポレオン」憲法
 ニ據ルモ法律申立ノ權ハ獨リ皇帝ノ任スル所ナリト制定
 セリ

獨リ英國ノ制ハ否ヲス他ノ諸國ノ制例ニ反シ議件申立ノ
 權ハ巴理門三部（愚按スルニ國王、上院）ノ權ニ附與シ國王ニ
 シテ之ヲ專任スルヲ許サス是レ國王ヲ尊敬スルノ意ニ
 出ルモノトス何トナレハ國王ノ起案ニ係ルモノニ對シ討
 論評議スルハ國王ノ名譽ヲ冒瀆スルニ至ランヲ豫慮
 シタルモノナレハナリ然リト雖モ其實際ニ於テハ英國ニ
 テモ亦法律ハ概シテ「ミニストル」官先ツ之ヲ起案シ而テ政
 府之ヲ承認シタル上「モナオン」（按スルニ問題トセシメテ述フ

云^ルフ^チノ方法ヲ以テ一議員ヨリ之ヲ議場ニ提出スルコトアリ」
 近頃ノ立憲政體國ニ於テ法律申立ハ通常亦議院内ニ在テ
 亦其手初ヲ爲スコトヲ得而テ其中立ハ議院ニ於テ總員之ヲ
 議シタル後ヲ始メテ可否協同ノ決定ヲナスモノナルカ故
 ニ其總員ノ議ニ致スノ方法ハ通常議員各自ニ於テ其件題
 ヲ起發セサルヲ得ス是レ始メテ一個ノ「モチオン」ヲ成スモ
 ノタリ由是觀之議院ノ申立權中ニハ自カラ各自ノ「モチオ
 ン」權ヲ含有スルモノトス然レモ此權ヲ有スルヲ以テ議院
 自己又ハ國家ノ爲メニ禍害ノ所業ヲ生セシメサラソコニ
 注意シ議院自己ノ要ニ供スル所ノ監督^{コントロール}ナルヘカラス畢
 竟法律ノ申立ヲ致スコトハ其本體ニ於テ偏ニ一個人ノ職務
 ニ非スシテ國家ノ職任ナレハ乃チ議院ノ人員ハ壹個人タ

ル分限上ニハ之ヲ致スノ權ナシ議院ハ國政ノ一體タルヲ
 以テ此權ヲ保有スルノ法理ヲ明カニセサルヘカラス今ヤ
 議院ヲシテ此目的ニ遵ハシムルノ方法ハ左ニアルヘシ
 (天) 議題トナスコトヲ允許スルコト或ハ之ヲ肯セサルコト○議
 件ハ若シ禍害ヲ生スル等ノ恐レアリ判然大切ノ原由ヲ說
 明シテ之ヲ廢案ニ附スヘシトノ抗擊ヲ致スニ非サレハ則
 チ規則ニ於テ之ヲ允許スルモノトス英國ニテハ第一回公
 讀ニ於テ之ヲ成ス
 (地) 「モチオン」ヲ致セシ者ヨリ申出タル上嘗テ公讀シタル
 事件ノ切要ナルコトヲ辨明ス英國ニ於テハ第二回公讀ニ於
 テ之ヲ成ス
 (人) 議院中委員ヲ設ケテ小會議ヲナシ及ヒ審査スルコト或

ハ會議ニ係クル前ニ此事ヲ政府ニ指示スルヲアリ

第三 一般ノ性情及一般緊要ナルヲ精密ニ報告シテ之ニ應スル所ノ立法ノ規則及其他立法體ノ權限内ニ屬スル所ノ規則ヲ誘進セシカ爲メニ其審査ヲナスノ權

歐洲陸地ノ議院ニ於テ右ニ述フル所ノ見込ヲ達セシカ爲メニ公務ニ關スル意見及行政ノ報告ヲ要セリ英國巴理門ニ於テハ之ニ反シ其委員ニ於テ熟練ナル私人ニ就キ其口述或ハ書面ヲ以テノ申立ヲ參考シ又ハ自由ニ願出タル者即チ建白等ヲ採用シテ此審査ヲ致スノ風ヲ成セリ

第四 歎願出訴、其他總テ其職務ニ關スルモノハ之ヲ請取リ其權限施行ノ用ニ供スルノ權或ハ止ムヲ得サルノ場合ニ於テハ其事件ノ決定ヲ成スノ權

第五 議員ハ國ノ爲メニ其志、冀圖及注意スルヲアレハ充分之ヲ述フルノ權

國君ハ議院開式ノ序次ニ於テ勅語式ヲ以テ右同様ノ權ヲ施行スルノ通則アリ而テ此勅語タルヤ立憲政體國ニハ法理ニ於テ國王親ラ其志ヲ陳述スルモノニシテ國王ハ徒々ニ「ミ」ニストル「官」ノ語管ノ「ミ」ニハ非サルヘシ然リト雖モ此事モ亦他ノ國家事業ニ於ケルカ如ク職トシテ「ミ」ニストル「官」之ヲ代理スルモノニシテ則チ勅語ノ要領及式ハ「ミ」ニストル「ト」ノ協同一決タルヲ示スモノナリトス故ニ勅語ヲ發スルニ先キ「ミ」ニ國王亦「ミ」ニストル「ト」之ヲ議決スルナリ

議院ニ於テ右勅語ニ答フル「ト」ハ議院ノ志ヲ陳述スルモノナリ而テ各院ニ於テ此答語ヲ充分自由ニ陳述スルハ議

院ニ裨益スルヨリハ更ニ國王ニ裨益ヲ與ルヲ居多ナリト
 ス然リ而テ此答語ハ其職務トスル所ノ志想ヲ明示スルニ
 非サルカ故ニ敢テ兩院ノ協同一決ヲ求ムルヲ要セス素
 ヨリ此事タル其院ノ道德上權柄ノ重力ヲ強フスルニ過キ
 ス一ツモ之ヲ國民ノ志想ヲ顯ハスナリト見做スヘカラス
 如何トナシハ斯時ニ際シテ議院ハ其頭顱タル君主ト相離
 ル、トナク且ツ其志想タルヤ全國民ハ未ダ嘗テ之ヲ議院
 ニ附托セサル所ナレハナリ
 之ニ反シテ法令ヲ國民ニ頒布スルノ權ハ一院或ハ兩院ニ
 於テ共ニ與ニ此權ヲ有スルヲナシ法令頒布ノ事タルヤ志
 想自由ノ明示ヲ保有スルノミナラス殊ニ國家ノ權柄ヲ以
 テ整定シタルノミニシテ而テ如斯ノ權ハ唯立法全體即チ

政府ノ機關ニノミ之ヲ運用スルヲ得ルアルノミ

第九款 國王ノ特權

夫國王ハ立法體ノ頭領タリ是ヲ以テ左ノ特權ヲ有スルハ固ヨリ法理ノ當サニ然ルヘキ所ナリトス

第一 議院ヲ徵喚シ及立法體ヲ集會セシムルヲ國王自己ニ在テハ看護及統御ノ任ハ永久之ヲ有スルノミナラス尙ホ議員ヲ要スル場合ニ際セハ四方ニ散在スル所ノ各議員ヲ舉ケテ其側ニ會集セシムルノ權アリ然リ而テ當時ノ學問上ノ推理ニ於テハ政府ハ即チ行政權ヲ行フモノニシテ斷シテ立法權ニ干與スルヲ能ハサルモノナリトスルトハ雖ヒ共和政ノ國々ニ於ケルモ亦立法體ニ係ル如斯ノ權力ハ猶ホ政府ノ權トスルノ規則ナリトス

然レヒ政府ニ於テ肆ヒマ、ニ立法體ヲ召喚シ或ハ召喚セ

サル等ノ所業ナカラシメシカ爲メ其集會ノ規則ヲ定メ閉院ノ時ヲ短フシテ開院ノ時ヲ長フスルハ立法體ノ活動健全ヲ保ツヲニ於テ肝要ノ事件ナリ乃チ歐洲陸地ニ於テ如斯方法ノ不備缺典ニ由リ往々種族憲法ノ破攘ヲ來タシ爲メニ專制無限ニシテ徒ラニ誇大ニ陷ルノ弊ヲ生シ終ニ變革ノ動搖ヲ興セシマアリ而シテ英國ニ於テハ夙ニ「エドワルト」王第三世ノ時ニ在リテ業ニ既ニ「巴理門」毎年集會ノ法アリキ然ルニ英國史ヲ按スルニ儘マ其缺典ヲ致セシノミナラス後ナニハ令ヲ布ヒテ三ヶ年間ニ唯一度ノ會議ヲ開キシノミ而シテ積弊此ニ底ルモ終ニ之ヲ矯正シテ毎年集會ノ規則ヲ回復シ近代ニ於テハ諸國憲法モ亦殆ント毎年集會ノ法則ヲ一定セリ斯ク集會ヲ毎年ニスルモノハ國庫

歳出入ノ收支豫算決算ニ最モ接近ノ關係ヲ有シ又ク政府トノ交際ヲ厚フシ兩權間翁然トシテ互ヒニ其動作ノ調子ヲ合ヘ之ヲ活存セシムルノ效能ヲ有スルモノナリ

第二 議院ヲ閉ツル^{シネリスンク}ル^{アウフレイスンク}及解散セシムル^{アウフレイスンク}トハ開院期限内ニ於テ集會ヲ停止シテ之ヲ他日ニ延引セシムルノ權ニ至リテハ國王ハ勿論各議院自己ニモ亦之ヲ有スル^トヲ得而テ彼ノ議院ヲ閉ツル^{シネリスンク}トハ開院期限ノ終リタルニ由ツテ閉院スルモノナク云ヒ^{アウフレイスンク}解散セシムル^トトハ議院ヲ停止スルモノナク云フ且夫閉院スル^トハ議案ノ都合ニ因ル手若クハ議院ノ請求ニ依リ國王親ラ之ヲ決スル^ト以テ通常ノ事ナリトス又ク解散セシムル^トハ更ニ新クナル議員ヲ撰舉セサル可カラス而テ設シ一朝第二院ヲ解散スル^トアル^トハ第一

院モ亦タ之ヲ閉^ザル^トヲ得サルナリ

第三 法律ニ鈴印スル^ト及總テ立法全體ニ屬スル所ノ職務ニ就キ最終ノ裁決ヲナス^ト

近代ニ於テハ國王ノ鈴印ヲ要スルモノハ即チ國王ノ「^フエト」權^按ヒ^嫌スル^ニ禁止^及ナリトスルノ風習ヲ成セリ抑モ此語ノ意味ヲ考フルニ素ト羅馬國會ノ否認權^{子ガチ、フ}ヨリ取リタルモノニシテ其理ニ當ラサルモノト謂フベシ抑法律ニ鈴印スル^トヲタルヤ國王ノ可認權^{ホヂ、ハ、}ニ係リ即チ立法ノ權柄ヲ補ヒ以テ之ヲ完成スルモノニシテ立法最上權タル所以ナリ決シテ立法權ヲ制限スル所以ノモノニ非ス又法律ノ實施權ニモ非ス唯タ法律ノ製作方法タルニ過キス而シテ其議定案ハ鈴印アルニ由ツテ始メテ法律タル^トヲ得、鈴印アラサ

レハ法律ヲササルノミ
 英國々家學者ハ無限ノ「フエト」權アルモノトセルニモ拘ハ
 ラス實際鈴印ノ體裁ハ「レ、ロ、ロ、イ、フエウト」(愚按スルニ國王ハ)
 ト云ヒ嫌忌ノ體裁ハ「レ、ロ、ロ、イ、サ、フ、イ、セ、ラ」(愚按スルニ國王)
 意云フト云フカ如ク實ニ英國ノ國法ニ於テハ右ノ理由ナル
 疑ヒナシ其他近今ノ憲法中ニハ間々國君ノ鈴印ヲ爲ス
 ハ全ク可認權ニ係ルヲ直筆明記セルモノアリ
 近今ノ共和政國ニ於テハ之ニ反シ罕レニ政府ニ在リテ唯
 「フエト」權ヲ有スルモノアレ共、就中「フエト」權ニ制限ヲ付ス
 ルヲ以テ規則トセリ而テ制限ノ「フエト」權ニ牽制セラレテ
 法律ノ實施ヲ延引シ暫時之ヲ停止スルヲ得、北亞米利加
 ノ如キ是ナリ若シ大頭領ニ於テ某法律ヲ實施スルヲ好

マサルヲアレハ更ニ之ヲ會議ニ附シテ再考審議セシメ若
 シ又タ再度各議院ニ於テ前同様ニ三分二ノ多數ニ決定シ
 敢テ變改スルヲナクンハ則チ大頭領ハ其法律ノ働カテ妨
 クルヲ得、瑞西國ニ於テハ政府ニ一ツノ「フエト」權ヲ有セ
 ス
 獨逸憲法ニ於テハ皇帝ニ固有ノ「フエト」權ヲ附與シ而テ此
 權ヲ有スルニ由リテ陸海軍及ヒ直稅及消費稅ノ事ニ關スル
 ノ法律ヲシテ或ハ擅ヒマ、コ多數ニ依ツテ變セサラシメ
 スシテ現行法律ノ方向ヲ鞏固ニスルモノタリ(憲法第五章)

第十款 兩院ノ權

第一 兩院ハ共ニ與ニ國家ノ行政ニ干涉スルノ權アルヲ
 ナシ然リト雖ヒ其全局ヲ監督スルノ權ハ充分之ヲ有ス是
 レ立憲政體ノ國法ニ於テハ最モ緊要ナル所ノ一大區別ナ
 リトス抑モ行政ハ永續シテ間斷ナク其職務ヲ執ルモノナ
 レハ乃チ期ヲ以テ聚散スル所ノ代議士會ヲシテ固有ノ行
 政職務ニ任セシムルハ則チ極メテ拙劣ノ機關ナルヘシ（按
 ルニ不當ニシテ事）然レヒ法律ニ違背セサルヤ否ヤ行政
 務ノ舉ラサルヲ云々如何ヲ看察シテ其志ヲ明示スルハ適
 其宜キヲ得タルヤ如何ヲ看察シテ其志ヲ明示スルハ適
 應ノ機關ナリト謂フヘシ殊ニ立憲政體ノ國ニ在テハ行政
 ハ之ヲ一團ノ範圍ニ置キ他ト分離隔絶セシムルト雖ヒ行
 政施行ノ宜シキヲ得セシムルカ爲メニハ庶民舉テ其得失

ヲ言フコトノ權利ハ國家ノ認メテ以テ可ナリトスル所ナリ
 故ニ議院ニ於テハ行政各件ノ事ニ就ヒテ行政官吏ニ命ヲ
 下スノ權ナク亦「ミニストル」ニ向テ令ヲ布クノ權ナシ之ヲ
 究ルニ自己ノ職權ヲ超越シテ以テ行政各部ノ事件ニ干涉
 ス可ラサルナリ然リト雖ヒ議院ハ惣シテ左ノ事ヲ爲スノ
 權アリ

(イ) 國財ノ行政ハ法律上ノ豫算及議定認許ノ通りニ之ヲ
 實施シタルカ又ハ豫算ニ超過シタルカヲ點檢シ若シ超過
 シタル場合ニ於テハ行政ノ爲メニ其不足ヲ補フコトヲ承允
 シテ其負荷ヲ免レシムル乎又ハ其掛リノ「ミニストル」官ノ
 任ニ當ラサルヲ責メテ其罪ヲ負ハシムルコト
 (ロ) 憲法若クハ法律ニ違背スルノ所爲アルトハ則チ之ヲ

批難シ且ツ督促シテ之ヲ矯正改良セシムルヲ
 (ハ) 國家政府ニ於テ公ケノ需要アル乎又ハ不慮ノ事變アル乎ヲ注意シテ措カス若夫需要スルヲアルニ當テハ則チ之ヲ充タスヲ懲慝シ事變アレハ則チ之ヲ除クヲ勸ムルヲ

(ニ) 亦タ政略ノ大事件ニ係リ就中外交ニ關スル政略ノ如キハ其志ヲ明示シテ之レカ差圖ヲナスヲ○蓋シ此場合ニ於テ政府ハ其議ニ干與スルヲナケン然リト雖モ議院ニ於テ己レノ志ヲ強テ實施セント欲スルモハ則チ信任ヲ「ミニストル」ニ絶チ及ヒ人民ノ威勢ヲ藉リテ以テ之ヲ箝制スルヲ得此時ニ當ツテ「ミニストル」ハ唯々諾々議院ノ旨意ニ惟レ服従スヘキノミ而シテ「ミニストル」ニ於テ強

項自ラ望シ敢テ之ニ服従スルヲ嫌シトセサレハ議院ヲ解散シ以テ其撰舉人ニ訴告スルノ外他ニ方策ノ運ラスヘキナケン英國ニハ古來ヨリス原則ヲ以テ自ラ習慣ヲ成セリ歐洲陸地ニ於テモ漸々斯風ニ倣フニ至レリ
 第二 諸税課賦ヲ許諾スルヲハ先ツ下議院ニ於テ之ヲ取扱ハサルヲ得ス而テ貴族院ニ於テハ唯々其事アルコトニ下議院ノ議決案ヲ覆議シテ之ヲ決定スル乎若クハ拋棄スル乎ノ二途ノ外ニ出テス必シモ之ヲ變改スルヲ得ル能ハス是英國古來ノ方法ナリトス何故ニ如斯ノ方法ヲ存スルヤノ事由ヲ探究センヲ要シ英國史ヲ披閱スルニ元來英國ニテ都府諸州ヨリ代議士ヲ徵集シタルモノハ主トシテ此輩ヲシテ收税ノ許諾ヲナサシメンガ爲メニノミ徵集

四三

セシモノタリシヲ以テナリ其事由ノ在ル所他ナシ凡ソ租
 税ハ殊ニ平民ノ負擔スル所ノモノニ係リ貴族ヨリ徴収ス
 ルモノハ僅少ノ額ナルニ職トシ是由ルモノタレハナリ後
 來他ノ國々ニ於テモ亦之ヲ摸範トセリ
 議院カ有スル所ノ租税許諾ノ權ハ其程度何レノ境域ニ止
 マル乎ヲ定ムルヲ甚ハク難事タリ英國ニ在テ中古ハ其學
 問上ニ依ルキハ租税賦課ハ自由ニ之ヲ否ムヘキノ權ヲ有
 スルノ主義ニシテ其境域頗ル汎博ニ過ルカ如シト雖モ實
 地ノ施行上ニ至テハ左程ニ汎博ナルモノニ非ス國家活存
 ノ道ヲ益スルヲニ就テノ収税ハ兩院ノ議員之ヲ否ムヲ能
 ハサリキ
 一方ニ於テハ左ノ事柄ヲ考定スヘシ

(イ) 中古規定ノ方法ハ近代ノ國家主義ニ迥異シ臣民ニ於
 テ一税ヲ出サシムルヲ得スト云ヘル義務ノアルヲナク唯々
 臣民若クハ其代理者ノ意嚮ニ隨ツテ之ヲ出サシムルニ過
 キス近代ニ在リテハ否ラズ都テ全國家ノ需要ニ於テ缺ク
 可ラサルノ賦課ニ係ルキハ務メテ國民ノ力ヲ以テ之ヲ濟
 スノ權アルヲ

五三

(ロ) 國勢ノ進歩上ヨリ看察ヲ下スキハ則チ庶税ヲ徴収ス
 ルトチ抗拒シ若クハ収税ノ幾部分チ抗ムモノハ猶ホ國體
 チ衰弱セシムルト同一ナリトス而シテ租税ノ徴収チ躰蹙
 スルキハ秩序アル國家ノ活動チ妨クルヲ明ラケシ然リ而
 シテ國家ノ元氣ヲ疲ラシ國家ノ命脉ヲ失ハシムルヲノ權
 力ハ偏ニ國體ノ各部カ有スル所ノ權力ニ因ル能ハス又國

法ノ然ラシムル所ナリト爲ス可ラサルナリ
 (ハ) 下議院ニ於テ収税ヲ禁止シ及許諾スルノ權ヲ持シ毫
 モ制限程度ノアルコトナク漫リニ之ヲ行フコトヲ得ルモノト
 倣サハ則チ下議院ハ國家ノ諸權ヲ管轄シ全憲法ヲ顛覆ス
 ルノ勢力ヲ具有スルト謂フモ亦不可ナルコトナシ夫レ然リ
 豈ニ其レ然ランヤ如何トナレハ下議院ニシテ如斯權アリ
 トスルキハ其他ノ有權者就中國王ノ如キハ一ニ民院ノ志
 想ニ從順シテ政務ヲ執リ惟タ民院ニ憑依シテ以テ國家ノ
 保存ヲ望マンノミ若シ之ヲ望マストナラハ乃チ不法ノ權
 柄ヲ揮テ下議院ヲ壓倒シ所謂租稅徵収ヲ抗拒スル下院無
 限ノ權ヲ全廢スルノ外別ニ方便ノアルコトナシ
 千八百四十八年李滯西民會ニ於テ租稅徵収ヲ拒ムコトヲ以

テ自己ノ政畧ニ勝利ヲ得ンコトヲ企圖ヒシキニ際シ自ラ租
 稅ヲ拂フ所ノ民部カ公ヤケノ思想ヲ發揮シ其企圖ニ對シ
 テ殆ント國家不測ノ危害ヲ惹キ出サントセシコトアリ
 他ノ一方ニ於テハ均シク左ノ事ヲ須要トスルノ考定ヲ存
 セリ

(イ) 議院ハ憲法ニ於テ収税ヲ許諾スルノ權ヲ有スルカ故
 ニ當然拒ムヘキ場合ニ在テハ亦許諾ノ權柄ヲ倒持シテ之
 ヲ抗拒スルノ權ヲモ有スルコト

(ロ) 若シ斯權ナキキハ議院カ行政ニ對シテ有スル所ノ監
 督權ヲ活動スルコト能ハサルヘシトノコト

七三
 (ハ) 其他ノ權柄例ヘハ國王和戰權ノ如キモノニシテ專ラ
 國王ノ獨斷ニ依テ之ヲ舉行シ議院ヲシテ之ニ與ラシムル

「無シハ公權及ヒ自由ノ危害ヲ來スナルヘシト」ノ
議院ト政府ノ紛争ヲ解カント「要シ近代収税ヲ可否スル
ノ制限ヲ設クル」ニ就テ種々ノ論說アリ左ニ之ヲ掲載セ
ン

(一) 永久不易ノ豫算表ト輒スク更改シ得ヘキ豫算表トノ
區別ヲナシ而シテ宜シク更改シ得ヘキ分ノミ収税ヲ可否
スル「得ルモノト定ムヘシ」尤トモ更改シ得ヘキ帳簿ト
雖「國家ノ需要」ニ基ツカサルニ非ス又タ不易ノモノト雖
「必ラ」スシモ更改ス可ラサルモノニ非ス均シク不易ノモ
ノニ於テモ議院ハ之ニ關與スル「得ヘキモノタル」

(二) 依テ左ノ原則ヲ立ツヘシ
政事ヲ施行スル「就テ要ナル租税ハ須ラク之ヲ拒ム

「不許」ト云エルノ原則ヲ設クヘシ然レモ之ヲ徴収スル
ハ何等ノ要ナル事由アル乎ヲ詰問スルヲ得ヘシ而シテ
之カ爲メニ争論ヲ生シタルキハ同盟聯邦ニ於テハ上等裁
判所ニテ判決ヲ受クヘシ又統一國ニ於テハ國家ノ一和ト
國權ヲ毀害セサルヲ以テ其極度ト定ムヘシ

(三) 古來ヨリ徴收スル租税ハ其舊ニ依リ但タ新規ノ賦課
ニ係ル租税ノミ之ヲ拒ム「得ルモノト定ムヘシ」
茲ニ最モ簡便ノ手段アリ其方法タルヤ他ナシ収税可否權
ハ宜シク明カニ其制限ヲ設クスシテ内實自ラ其約束アル
モノト考定スヘシ所謂約束トハ即チ憲法ニ依リテ國家ノ
昌運ト安寧ヲ基本トスル所ノ國家保存ニ注意スルモノ是
ナリ而シテ此手段タルヤ敢テ議院ノ政權ヲ強フスルノ具

ト速了スヘカラス又議院過度ノ所業ヲ助クルノ方ナリト
 妄測スヘカラス○是ヲ以テ議院ニ在リテハ年度ノ支出ハ
 其當ヲ得タル乎若クハ過度ナル乎將タ租税ノ徵収方ハ其
 分ヲ失ハス其目的ヲ誤マラサル乎否ヤヲ檢考シ國家經濟
 ノ道ニ循ツテ可認及否認スルハ則チ充分其自由ヲ有ス
 ルヲ以テ可ナリトスト雖ヒ一概ニ収税ヲ否認スルハ固ト
 ニ之ヲ不當不法ノ所爲ナリト謂ヘキノミ如何トナレハ必
 ラス租税ヲ徵収スルヲナクシテ國家ヲ保存スル能ハサレ
 ハナリ

政府ニ於テ租税ヲ支用セントスルヤ或ハ無益ノ目的ニ出
 テ或ハ其當ヲ得サルヲアリ議院ニ於テ痛ク之ヲ懸念スル
 ヲアルハ其租税ノ徵収ヲ否認シ又既ニ可認ヲナシタル

權ヲモ亦等シク之ヲ禁止スルハ敢テ不可ナルヘシ然リ而
 テ議院ニ於テ若シ「ミニストル」ノ政略ニ對シテ一モ其信任
 チ繋ケサルカ如キ「アル」ハ則チ其懸念スル所ハ一層甚
 タシキヲ致スハ論ヲ待タサル所ナリ故ニ此時ニ當ツテハ
 民情ニ淳ル所ノ「ミニストル」官ニ對シテハ好テ徵収ヲ許サ
 ノヨリハ寧ロ先ツ之ヲ吝ム所以ノモノハ當然ノ事ニシテ
 敢テ之ヲ批難スヘキニ非ス此時ニ當テハ「ミニストル」ハ自
 ラ促サレテ其職ヲ辭退スルナルヘシ

第三 租税ノ徵収ヲ許諾スルノ權ヲ有スルニ因リ通例國
 債ヲ募リ領地ヲ典賣スルヲ決定スルノ權ヲモ同一ニ之
 チ有スルモノトス

第四 右ニ等シク議院ニ在リテハ國家ノ惣歲入出ヲ計算

シタルモノ(豫算表)ヲ認許シ亦タ政府ニ在テハ議院ノ檢視ト同意ヲ得ンカ爲メニ議院ニ向テ國家ノ計算ヲ出スノ方法ハ憲トニ全國家ヲ統轄スル近今國家保存ノ體裁ナリ豫算表ヲ議スル事ニ於テモ亦タ通常重モニ民院ノ任スル所タリ而シテ斯方法ハ英國ニ倣ハサルヲ得ス君主國中上院ニ在リテハ其申立ヲ渾テ採用スルカ又ハ之ヲ拋棄スルカニ過キス決シテ其申立件々ノ改訂權ヲシト定ムルノ國多シ但シ共和國ニハ兩院間ノ區別ハ君主國ノ如ク甚シカラス

民院ヲシテ斯ク權衡ノ強量ヲ得サシムルト雖モ決シテ之レカ爲メニ法律ノ高權力ヲ障害スルコトナシ○收入及支出ニシテ法律若クハ法理ヲ遵守スル所ノ條約又ハ永續ノ規

定ニ依テ取り究メラレタルモノハ亦之ヲ豫算表ニ確定スベシ○立法ノ全部ニ於テ協議ヲ經之ヲ規定シタル所ノモノハ立法各部ノ權ヲ以テ擅ニ之ヲ變改スルコトヲ得サルモノナリ唯ク法則ニ照ラシ允當ナリト認メラレタルモノ殊ニ支出ノ如キモノハ自由ニ其許諾權ヲ弄シテ可ナリ○是ヲ以テ豫算表ハ大概止ムヲ得サル所ノ永續法ノ性質ヲ存セリ

歳入ニシテ之ヲ豫算表ニ記入スヘキモノハ單ニ領地ヨリ収納スル入額ヲ推算シ法律上徴收スル所ノ租額及ヒ前年度ノ餘金、既ニ允許ヲ經タル貸附金等、ヲ臆算スルモノニ基ツケリ而テ又法律ニ據ツテ變更スル規則ニ定メタル所ノ稅額ニシテ之ヲ豫算表ニ定記シタルモノ、或ハ官有物ヲ賣

四四

却シテ代價ノ支用ヲ定記シタル分ノミハ全ク法理結附ノ性質ヲ有シテ之ヲ豫算表ニ記入スル部分ニ屬シ其他ノモノハ但タ大藏ノ計算事業ニ係ルモノトス

歳出ニシテ國財法律ニ據リ豫算表ニ明細ニ規定スヘキモノハ大概計算法ニ準シテノミ之ヲ定ムルヲタリ○國家ハ其國債アレハ其利子ヲ償却シ又タ場合ニ依テハ其元金ヲ返濟シ其官吏ニ法律上ノ給料ヲ渡シ又ハ官廳ヲ保存スル等ノ職務ヲ有スルモノナリ而テ是等ノコトニ支用スルモノハ人民代議士ニ於テ之ヲ拒ムコト能ハス要スルニ支出ニシテ法律上止ムヲ得サルニ出ルモノカ又ハ公ケノ需要上支出スヘキノ條理アルモノハ代議士ニ於テ擅ニ之ヲ拒ムコトヲ許サ、ルハ公法ノ然ラシムル所ナリ然リト雖モ未ダ法

五四

律上ニ規定セサルモノカ若クハ未ダ條理上止ムヲ得サルニ出ツルモノト視認サレサルモノ例ヘハ官吏ノ給料ヲ増加シ、若クハ新クニ城塞ヲ建築シ、將タ鐵道新架、ニ就キ貨幣ヲ要望スルカ如キハ、人民代議士ニ於テ或ハ此支途ヲ可認シテ其行政ノ權ヲ附與シ或ハ否認シテ此事件ヲ禁制スルコトノ權利アリ又支出方ニ付キ法律上ノ明載コト要セサレモ行政廳ニ在リテハ國家ノ爲メ差置ベカラサル必需ノ支途ナリト稱説スルモ議院ニ在リテハ此需要ヲ疑異シテ置カサルコトアル場合ニ際シテハ之ヲ如何シテカ其判定ノ當ヲ得可キヤノ疑議ヲ生スルコト往々アリ例ヘハ建築修繕ノ支出、昂貴シタル雇工費ノ支出、兵士ノ養育及準備等ノ如キ是ナリ若夫如斯紛議ヲ起スルハ、則チ公法上ニ關スル事件

ハ其事柄ニ於テモ亦公法ノ本質ニ從ツテ判決スル所ノ國
 家裁判所^{ツァリヒッホーフ}ニ附シテ自由ニ之ヲ審理シ裁決セシムルノ外ハ
 處置^シ難キモノトス。○元來豫算表ナルモノハ其囊括スル
 所大半法則ノ事ニ係ルヨリハ先ツ計算ノ事ニ係ルモノナ
 ルヘシトハ雖モ之ヲ定ムルニ當テハ猶今日ノ實際ニ施行
 セラル、カ如ク國財法律ニ準據スルモノトモハ予ハ國家
 ノ爲メ社會ノ爲メニ最モ利益アルモノト思量セリ然レモ
 其全體ハ必ラス財政ノ爲メ國民ノ爲メ及ヒ社會ノ爲メニ
 緊要ノ利益ヲ有スル所ノ法ノ本則ニシテ行政廳ニハ法理
 ノ全權ト自ラ其放肆ヲ抑制スル所ノ規則ヲ保有セリ人民
 及社會ハ法理義務ヲ擔任セリ到底其全體^ハ「ミニストル」カ
 責任ヲ負フ爲ノ法理淵源ナリ

第五 議院ノ監督ニ働力ヲ與ヘンカ爲メノ最終ノ方便ト
 シテ議院ハ「ミニストル」ヲシテ其責ニ任セシメ且ツ自カラ「ミ
 ニストル」ニ對シテ國家ノ作用ヲ誘導スルノ權利ヲ有セリ
 英國ニ於テハ此作用方ニ就テ「ミニストル」ニ對スル訴告ハ
 都テ下院ヨリ提出スルトモ謂フヘキ景況ニマテ開進セリ
 是ニ於テ乎下院ハ殊ニ政府カ厭棄スベク若クハ禍亂ヲ醸
 スヘキ不當ノ所業ヲ施コシタルニ由ツテ困迫損害ヲ蒙リ
 タル所ノ人民ニ代ツテ之ヲ追回整理スルモノナリトス此
 制ハ北亞米利加ノ憲法(第一款第二章)ニ傳播シ而シテ該國
 ニハ一層廣博ナル範圍ヲ設ケ代議府ハ概シテ國家官吏ハ
 勿論大頭領ヲモ訴告スルノ權アルモノト定メタリ爾後歐
 洲陸地ノ憲法上ニモ往々模倣スルコトナレリ獨逸各國ノ

憲法ニ於テハ兩院共同ノ要求ニテ「ミヨストル」ニ訴告スル
 一甚々容易ナラス或ハ兩院各別ノ訴告ハ之ヲ許ストハ雖
 此政府ノ所業ニ對スルノ訴告ハ議院外ニ立ツ所ノ國家裁
 判所ニ提出スルノ法ニシテ訴告ニ於ケル政畧ノ刀劍ハ頗
 フル鈍劣ニシテ銳利ヲ見サルナリ

第六 英國法ニ依ルニ國家ニ對スル下院ノ訴告ヲ所置ス
 ルモノハ獨リ之ヲ上院ノ任スル所トナセルハ其宜キヲ得
 タル制ニシテ公安ノ裨益ニ關スル訴告ハ國民事件トシ之
 ヲ所置スルニ至當公平ヲ以テスルハ貴族(即チ上院)ノ職掌ナリ
 一親認スヘキハ當然ノ事ナリ北亞米利加人ニ於テ嚴然種
 多ノ國家權柄ヲ分割シタルヲ以テ自負セルハ甚々善ミス
 ヘキモノニシテ他各國人民ノ企テ及ハサル所ナレ共該國

人モ亦國家ニ對スル訴告ノ所分ハ之ヲ元老院ノ職務ト定
 メタリ但シ素ト憲法ノ草案ニ於テハ此處分ハ上等裁判所
 ノ職任ト記載セシカ竟ニ議院ノ爲メニ退ケラレタリ概ス
 ルニ左ノ政畧及性理ノ基因ヲ探究シ英國ノ制ヲ以テ絶ハ
 タ善良ノ制トナセリ

(イ) 如斯訴告ノ切要ニシテ困難ナルモノヲ提出スルハ必
 ラス民院ノ職掌ナリト明示スルモノナリ而テ斯ク訴告人
 ニシテ大勢力ノ權柄ヲ有スル者ニ對シテハ通常ノ裁判所
 ハ其勢自ラ過弱ナルモノ、如シ故ニ之カ裁判ヲ爲スモノ
 ハ他ノ充分ナル高權力ヲ有シ獨立ニシテ且ツ高尙ナル所
 ニ於テノミ之ヲ受理スルハ裁判價位ト公ケノ信用トニ
 缺ク可ラサル所ノ同權衡ヲ保ツヲ得ヘシ

(ロ) 此訴告ハ政界上ノ事ニ渉ルモノナレハ乃チ其正當ノ價位ヲ得ルニハ博識多能ヲ之レ要望スルモノトス而シテ其要望ハ最モ政學者ニ繫ルモ偏ニ法律學者ヲ以テ等シク之ヲ待スルハ其宜シキヲ得サルモノトス

(ハ) 政界上誤謬ノ所業ハ千差萬別一ニシテ足ラサルカ故ニ現ニ裁判官ニ結附スル所ノ成文律ハ細密ニ渉ルノ規則アリト雖モ直チニ此規則ニ依據シテ之ヲ判決セントスルハ極メテ難事ナリト謂ハサルヲ得ス仍テ此判決ハ全ク之ヲ裁判上自由ノ處分ニ任セサルヲ得ス一方ニ在テハ右ニ述フル所ノ至難ナル原質アリ又ク一方ニ在テハ如斯働作ハ黨派ノ熱心非常ニ沸騰スルノ危險アルヲ以テ他ニ關係ヲ有セスシテ卓然タル高位地ヲ占ムル俊秀多人數ノ合議

ニ寄托シテ之ヲ判決セシムルヲ以テ允當ナル所置ナリトス

然リト雖モ此間英國ノ制ハ自カラ北亞米利加ノ制ト異ナルモノアリ英國ノ制ヲ按スルニ上院ニ於テハ一切ノ刑事ヲ處分シ通常此事ニ關シテハ他ニ續ヒテ之ヲ審理、裁決スルモノナシ北亞米利加ノ制ニ據レハ元老院ニ於テハ官吏ヲ退職セシメ及ヒ公務官吏ニシテ現任ノ職務ハ勿論後來其他ノ職務ニ任スヘキ信憑ヲ受クルトニ適セサルナリト明示スル等唯政界上ノ懲戒ヲ加フルニ過キス而テ其刑事ノ罰ニ渉ルノ犯人ハ一個ノ重罪者ナルカ故ニ法律ニ於テ之ヲ審士(按スルニ倍審官)ノ處分ニ附スルモノト定メタリ

北亞米利加ノ判決ニハ國家ト被告人ハ之ヲ確別シ及ヒ國

法ト刑法ノ間ハ正當ノ區別ヲナセルヲ英國ノ及フ能ハサル所ナリ

千八百十四年佛國法律(第三十三章)ニ於ケルモ亦上院ヲ以テ國事犯及國安ノ妨害ニ關スル重罪ヲ處分スル所ノ裁判所トシ就中代議院原告人タリシキハ勿論「ミニストル」若クハ其他ノ官吏ニシテ被告人タリシキニ於テモ之ヲ處分スル所トセリ此趣向タルヤ稍ヤ羅馬憲法ニ摸倣スル所アリ獨逸憲法ニハ政界上ノ所犯モ亦々通常上院ニ於テ之ヲ裁判スルノ權無ク此ノ如キ訴事ハ裁判所ノ處分ニ附托セリ獨リ「パーテソ」國ニ於テノミ國家裁判所ニハ上院ノ議員ト裁判所長トヲ混シテ之ニ列セシメリ○予今下條ニ於テ右ノ事件ニ關スル「ミニストル」責任ノ監視ヲ説カントス

第七 各個人ノ家ニハ僉ナ自カラ一家法ヲ施行シ孤立シテ家内ノ秩序ヲ有セリ國家ニ於テモ等シク之ヲ要シ議長及集會者ハ則チ官吏ノ督責權ヲ有セリ英國ニ於テハ此督責權甚タ廣博ニシテ制限ナキカ如ク陸地ニ於テハ通常之レカ制限ヲ設ケリ

第八 上院ノ編制及權利ニ關スル所ノ法律ハ英國ニテハ先ツ之ヲ上院ニ持出サ、ルヲ得ス而テ下院ニテハ唯々之ヲ採用スルカ若クハ棄擲スルニ過キス決シテ之ヲ添刪スルヲ許サス

第九 千八百五十一年ナポレオン憲法ニ於テ元老院固有ノ位地及職務ヲ掲ケタルヲ左ノ如シ

三五 (イ) 元老院ハ政府ニ於テ憲法或ハ宗教或ハ道德或ハ信教

自由或ハ各人自由、或ハ諸民平等ニ法律ノ遵奉或ハ財產ヲ毀傷セサルヲ及ヒ裁判位地ノ隔絶スヘカラサルノ原則ニ違背シ或ハ邦國ノ防禦ヲ傷害スルカ如キヲアレハ勉メテ之カ反對説ヲ主張シ之カ根元ニ溯ホリ其公布ヲ拒絕スルノ權ヲ有ス(第二十六章)

(ロ) 議決ニ依リテ憲法ノ缺典ヲ補充スルノ權(第二十七章)

(ハ) 物シテ憲法違背ノ所業ハ之ヲ矯正スルノ權(第二十八章)

(ニ) 新法律及憲法變更ノ發議ノ權

兩院ノ權終

第十一款 法律(一)各法律分類

羅馬人ニ在テハ初メ「レキス」(按スルコト單稱セシモノハ各々負擔セラレタル所ノ法ノ義勢ナリト理解シ而テ國民一般ニ負擔セラレテ自カラ承認シタル所ノ法ノ義務ヲ「プ、リカ、レキス」(按スルニ公)ト唱ヘタリ乃チ人民ハ法律ヲ其身ニ服膺シ以テ其法律ニ結附セラレ官府ハ人民ニ對シテ其義務ヲ膺ケンヲ要求セリ是故ニ羅馬ノ法律ハ元來人民ノ意想ヨリ出テ之ヲ施ク所ノ規則タル性質ヲ佩フルヲ基ナクシテ人民自カラ服従スル所ノ義務タルノ性質ヲ佩フルモノ多シ然レモ其後チ羅馬人モ亦其法律ト稱スルモノハ主トシテ民會ニ於テ之ヲ決定シタル一般ノ條例及法度ヲ指示スルヲ成レリ

近代ノ法語ニ於テハ法律ナル言辭ヲ種々ノ意義ニ通用スルコト左ノ如シ

(天) 概スルニ一般ノ條規、條例、若クハ永續スヘキ各法度、法令ハ勿論習慣法、學問法ヲモ汎稱シ尙ホ私會ノ規則ト雖モ之ヲ法律ト通言セリ

(他) 稍々意義ノ限域アルモノニ於テハ公ケノ權柄ヲ以テ國家ニ施行スル所ノ條例若クハ法度ヲ謂フ此用方ニ從ヘハ亦タ羅馬官廳ノ命令、皇帝ノ詔誥及指令、市府評議所ノ規則並ニ中古ノ裁判所ノ命令ヲモ稱シ而シテ輓近ハ政府ノ布告ヲ指稱セリ

(人) 本然ノ意義ヲ考レハ法律ト稱スルモノハ唯リ最上立法ノ權ヲ有スル立法體ニ於テ國家最高ノ權柄ニ據リテ整

修シタル永久ノ條例及法令ノミチ單稱スルヲ以テ當レリトス然リ而シテ國家自餘ノ機關ニテ定メタル所ノ其他ノ法令語及條規ハ勿論設ヒ立法官自己ノ決定ヲ經タルモノト雖モ目下ノ用ニ應シテ一時ノ假設ニ成リタルモノハ決シテ之ヲ法律ト稱ス可カラサルナリ

其本然ノ意義タル法律ノ大綱領ヲ考究シ須ラク之ヲ左ニ區別スヘシ

(5) 國憲大法及根本法律 此法律ニ據テ國家制度ノ大本ヲ調理シ時トシテハ亦其國土及住民ノ原法ヲ調理ス

(6) 經綸法律 (按スルニ根本律ハ猶ホ人體ノ如シ經綸此法律ハ根本律内ニ在テ各制度ヲ構成スルモノ是ナリ

右「5、6」ノ兩法律ハ立法官カ機關ニ據ル所ノ作業ニ基クモ

ノナレハ即チ之ヲ以テ止ムヲ得サル所ノ結付法ヲ建ツル
 モノナリ畢竟至高政法タルノ性質ヲ帶ルカ故ニ殊ニ公法
 (ジュスプ、リクム)ニ屬スルモノトス。○而シテ國憲大法及
 根本法律ノ改訂ハ太ハク緊要ノモノナルカ故ニ或ヒハ通
 常ノ經綸法律ヨリハ尙ホ一層嚴密ノ體式及一層高大ノ要
 件ヲラシムルノ國アリ例ヘハ千八百四十八年瑞西國同盟
 憲法第百十四章ニ曰「改訂シタル同盟憲法ハ瑞西國士ノ多
 數ト各州ノ多數ニ據テ可認サレタルキニ其効力ヲ有スル
 モノトス」トアルカ如シ

(ハ) 政事(行政)法律及政法。此法律ハ萬機ニ關スル行政
 ノ方法ヲ調理シ並ニ國士ノ政權ヲ調理ス。○此法律タルヤ
 常ニ固結ノ性質ヲ有スルナシト雖モ多クハ公權ノ作業並

自由權ノ施行方ヲ定メ能ク其限界ヲ建ツル所ノ綱領ヲ
 含有セリ

(ニ) 理財法律。此法律ハ國家ノ理財ニ關スルモノヲ調
 理ス。○此律モ亦等シク公法ヲ保有スルモノナレ共或ヒハ
 結附ノ性質ヲ有セサルコト屢々アリ然リト雖モ例ヘハ國
 家ノ信任ヲ使用シ及租稅ヲ賦課スル等ノ事ニ關スル政府
 ノ權ヲ保持セリ

(ハ) 刑法及警視法律。此法律ハ規則ニ於テ禁令及刑
 罰ノ事ヲ保有ス故ニ強迫ノ性質ヲ帶ルモノナレ共彼ノ禁
 令犯罪ノ關係ニ從テ各々之ヲ的該スルコト於テハ裁判上
 ノ所斷ニ自由ノ虛地ヲ明附スルモノナリ

(ヘ) 私法律。此法律ハ私法上ノ關係ヲ調理ス。○此律ハ

唯々公益上ノ如何ニ關涉スルモノノミハ則チ結附ノ性質
 チ有スルト雖也且ラク之ヲ例外ニ置キ本來私法ナルモノ
 ハ私約ニ於テ自分ノ法律ヲ定ムル所ノ各私人カ其志想ノ
 決定チナスヲニ就ヒテ標準ヲ取ルモノタルノ性質ヲ有シ
 及黨派ニシテ不條理ナリト抗拒シ自己ノ要求ニ應セサル
 其黨派ノ法トスル所ノ志想ハ眞ニ法ニ準據シタルモノ
 ト見ルヘクシテ且ツ之ヲ保タルヘキモノナルヤ否ヤヲ決
 定スル所ノモノタルノミ
 茲ニ又格別ノ注意ヲ要スル所ノ例外法律アリ名ケテ特權
 ト云フ而テ此語ヲ以テ時トシテハ不適當ナル廣濶ノ使用
 ナナシ竟ニ諸人平等權ヲラフニ汲々タル當世ニ在リテ
 ハ亦タ此特權ヲ誤用シテ敢テ其性質ヲ含有セサル所ノ法

令チモ稱スルニ至レリ例ヘハ國王ノ諸權ハ特ニ君王ノ一
 身ニ存スルモノナルカ故ニ之ヲ特權ナリト云フカ如シ○
 此誤謬ノ見解ニ出ル所ノ特權ナル語ノ用方ニ從ヘハ竟ニ
 國家ノ全制度ハ悉ク之ヲ特權ノ積重スル所ナリト見做ス
 可キニ至ルヘシ否ト見做サ、ルヲ能ハサルヘシ如何トナ
 レハ各機關ハ主トシテ全躰ノ精神ヲ以テ充サル、ニ依リ
 其本體ニ從ヒ即チ規矩ノ性質ヲ具備シ各々特別ニシテ且
 ツ獨歩スルノ權力ヲ有スレハナリ
 特權ハ常ニ例外法律タルモノニシテ就中左ノ數項ノ如キ
 ハ最近其著シキモノナリ
 (ア) 一ニハ規則正シキ法度及普通法ニ外ツレタル各個ノ
 特例ナリ例ヘハ亞丁人ノ「オストラキスムス」(貝殼)及「ボウル

ボ[○]ン[○]レ[○]ノ[○]佛[○]國[○]追[○]放[○]ノ[○]如[○]キ[○]ハ[○]即[○]チ[○]公[○]法[○]上[○]此[○]類[○]ノ[○]特[○]權[○]ト[○]謂[○]フ[○]ヘ[○]
ク[○]而[○]テ[○]職[○]業[○]專[○]賣[○]ノ[○]如[○]キ[○]ハ[○]之[○]ヲ[○]私[○]法[○]上[○]此[○]類[○]ノ[○]特[○]權[○]ト[○]謂[○]フ[○]ヘ[○]

(ベ)一ニハ要用緊切ノ意匠及目的ニ準スル[○]ノ意匠ニ由
リ道理上普通ノ法則ニ異ナルモノ及不規ノ法是ナリ○國
王陛下ノ權、英國貴族ノ特權、裁判官ノ職ヲ變スル能ハサル
ヲ、ノ如キハ即チ此意義ニ於ケル[○]正格[○]ノ法ナリ而シテ僧侶
ノ國家義務ヲ免セラル、[○]貴族ノ裁判ヲ特別ニスル[○]ヲ、ユ
ー[○]デ[○]ン[○]宗[○]ノ者ハ公務ニ從事シ及官吏ニ就ク能ハサル[○]ヲノ
如キハ之ニ反シテ此意義ニ於ケル[○]特權[○]ナリト謂フヘシ○
素々正格ノ法タリシモ時事ノ結菓ニ隨ツテ自ラ景狀ノ變
換スルニ由リ不正格ノ特權トナル[○]ヲ屢々アリ如斯特權ハ

多クハ人ノ爲メニ怨恨ヲ來タスモノナリ例ヘハ往時[○]リツ
テ[○]ル[○]族[○]ニ[○]シ[○]テ[○]身[○]體[○]及[○]主[○]活[○]ヲ[○]以[○]テ[○]國[○]家[○]ニ[○]役[○]事[○]セ[○]シ[○]モ[○]ノ[○]ハ[○]之[○]
カ貢稅ヲ免セリ是レ必ス正格ノ法ナリト見ルヘキモ其後
千六百年及千七百年代ニ當ツテハ貴族ノ免稅ハ眞ノ特權
トハナレリ

第十二款 (二)法律ヲ制定スルノ體式

法律制定ノ體式ヲ分ツテ四大項トス一ニ曰議[○]題[○]ノ起[○]案[○]二ニ曰議[○]案[○]ノ採[○]用[○]制[○]可[○]四[○]ニ曰法[○]律[○]ノ布[○]告[○]其[○]一 議題ハ當サニ評議スヘキ所ノ基本ニシテ而テ未來ノ完全法律タルノ體式ヲ保持スルヲ以テ他三項ノ成立スル所以ノ第一着ナル本源ナリトス故ニ其草案ヲ起スヤ務メテ精密ニシテ且ツ着實ナルヲ要ス例ヘハ古詩^ク學^ク韻^ク譜^クノ拙劣ナル詩賦ニ於ケルカ如ク若シ作爲ノ初メ苟クモ鹵莽ノ謬誤有ルキハ評議以テ之ヲ修正スルヲ甚ハタ容易ナラサルヘシ乃チ善良ノ法律ハ一個ノ技術ナリ而テ其草案ヲ起ス者ハ棟梁ナリ

古代ニ於テ議題ハ通常^{インデヒドエル}各個ニ取扱ワレ亞丁國ニ在リテハ

法律起案

議案評識

各都人士ノ手ニ成リ羅馬ニテハ獨リ一政府ノ手ニ就リシカ如シ然レ共亞丁ニハ議院羅馬ニハ元老院ノ豫議ト承認^(按スルニ猶ホ我カ國ニ於テ)審査ト檢視ヲ經ルカ如シ^テ要セシモノタリ今日ト雖也

議題ハ政府ヨリ回附スルモノ率ムテ十ノ八九ニ居リ而シテ立法會人員ノ手ニ成ルモノ殆ント稀ナリトス但シ政府ヨリ出タス所ノ議題ニシテ其完全ノモノタラシテ望ムキハ則チ亦之ヲ編輯者壹人壹個ノ事業ニ附スヘキノミ

其二 議案報告ノ上ハ評議ノ如何ニ之レ由ル而シテ其評議ニ二様アリ一チ豫議ト云ヒ一チ本議ト云フ

豫議トハ本議ヲナスニ先ク豫シメ評議スルモノ、謂ヒコシテ正式ノ法方ヲ存セス羅馬人ニテハ「コンチオン」^(按スルニ)公衆ノ談^フ其役ニ膺タリ民院評議ニ先クナテ之ヲ議シ以テ論ヲ云フ

其議題ヲ豫定スルコトナリ近時ニ在リテハ専ラ議題ノ草案
 ナ印刷シテ公衆ノ「ヂスクリプション」(按スルニ種多ノ意見ヲ
 交換シテ吟味スルト云
 フノ)ニ委シ復ク能ク建議建白等他ノ仕方ニ附スルコトヲ得
 而テ豫議ヲ須要トスルキハ議院ノ本議ニ附スル前ニ法律
 ノ草案ヲ世上ニ公告シテ公ケノ志想ヲ自由ニ開演スルノ
 機會ヲ保タシムルコト最モ緊切ナリトス
 議院自己ノ審査豫議ナルモノアリ前ニ所謂通常豫議ナル
 モノヨリモ一層至要ナルモノトス而テ此豫議ハ委員ヲ任
 シテ之ヲ致スモノナリ

委員、委員會議ノ審査(按スルニ即
 ナ小會議)及報告ノ制ハ英國ヲ以テ
 甚ハク開達シタルモノトス英國ニ於テハ樞要ノ事ニ係ル場
 合ニハ全議院悉ク委員ト爲ルヲ以テ常トス此時ニ際セハ

議長ハ其坐席ヲ下リテ議員ニ列ス而シテ平常ハ此議ヲ開
 ク毎ニ議員中ヨリ其委員ヲ撰出ス此委員ニハ惟一黨派
 ノ專任ヲ許サス必ス種多ノ黨派ヲ以テ之ニ充ツルノ慣習
 タルコトハ頗ル嘉ミスヘキコトナリ且ツ英國ノ審査法方タル
 ヤ管クニ其本原ヲ全フスルノミナラス其材料ニ富ミ及ヒ
 其監察ノ活達ナルコトニ於テ著シク其名譽ヲ世上ニ彰ハ
 シタルモノハ蓋シ偶然ニ非ルナリ視ユ見ユ其審査ハ單ニ
 官ノ報告ヲ以テ満足セス尙ホ汲々トシテ私ノ報告ヲ熟達
 ノ士ニ求メテ息マサルヲ見ユ而シテ此報告タルヤ或ハ書
 面ニシテ受理スルコトアリト雖モ多クハ其熟達ノ士ニ接シ
 親アタリ其説ヲ細聽シ然シテ后チ其所説ニ據リテ考究シ
 以テ委員ノ申立ヲナスコトナリ

陸地ノ議院ニテハ通常政府ヨリ得ル所ノ報告ヲ以テ足レ
 リトス而シテ此方法ヲ以テ審査スルモハ則チ甚ハタ簡易
 ノ方ニ屬シ事ヲ理スル迅速ニシテ且ツ使用スル所費モ亦
 僅少ニシテ止ム是レ却テ英國法ニ勝ル所ナリ然リト雖モ
 被治者ト直接ナシ被治者ノ志望哀訴等ヲ了知スル
 ノ點ニ關シテハ之カ報告ヲ爲ス所ノ行政官ハ之ニ關係ス
 ルト甚タ多シト雖モ委員ハ反テ其機會ヲ有スルト甚ハタ
 少ナキヲ如何セン但シ時ト場合トニ依リ陸地ノ方法タル
 即チ行政官ノ監定ニ委託スルモノ其効益ヲ奏スルトアリ
 委員ニシテ直接ニ自カラ之ヲ致スヲ以テ至要ナリトスル
 一アリ

此審査豫議ヲ致スニ種々ノ方法アリ佛國及孛漏西國ノ方

法ニハ抽籤ヲ以テ全議員ヲ數局ニ配置シ而シテ此數局ヲ
 以テ各個事ノ委員ニ充テ「バイエル」國種族委員ハ議院ヨリ
 之ヲ撰擇シ其他之ヲ議院中一個特別ノ事業トシテ自由ニ
 撰舉スル等ノ法アリ

右數多ノ體式ハ各々其場合ノ異ナルニ從ヒ或ヒハ此ヲ用
 ヒ或ヒハ彼ヲ用ヒ臨機應變ノ所置ヲナスヲ以テ其制ノ宜
 シキヲ得タルモノト謂フヘシ即チ獨逸國會ニ行ワル、所
 ノ制是レナリ但シ如何様ナル摸樣アルモ際スルモ左ノ
 二個ノ方法ヲ以テ足レリトス其一ノ方法ニハ種多黨派ノ
 人員ニテ最モ熟達ニシテ且ツ才能アル者ヲ任スルモハ宜
 シク至大ノ効益ヲ奏スヘキ一又一ノ方法ニハ委員ハ吟味
 及質問ヲナストニ就テ局中ノ人員ノミニ限ラス須ラク熟

達ノ士ノ協力ヲ以テ自由ニ之ヲ致サシムルキハ至大ノ効益ヲ奏スヘキト是ナリ

議院内ニ於テノ本議ハ左ノ主點ヲ考究スヘシ

(イ) 議員各々其說ヲ演述スルヲ自由ナリ決シテ撰舉人ノ命令ヲ以テ之ヲ牽制スルヲ許サス

(ニ) 「ブルケ」氏嘗テ其撰舉人ニ語リシヲアリ曰ク「夫レ巴理門ナルモノハ互ヒニ相凌キ以テ敵手ニ對スルノ利益ヨリ成立スル所ノ使節會議ニ非ス所謂使節ハ各々一個ノ辦理者トナリ他ノ辦理者ニ對シテ己レノ裨益ヲ保守セサルヲ得ス然ルニ巴理門ハ全ク其質ヲ異ニシ國民一統ノ利益ノ爲メニ評議スル所ノ會合ナリ敢テ其場所ノ異ナルニ從ヒ其意見ヲ殊ニスル等ノヲアル可カラズ衆員惟ク其說ノ歸

スル所ニ勘辨シ以テ一般ノ認可スル所ノ公安ヲ誘導スルモノナリト又華盛頓氏千七百八十六年十一月十五日附ノ書簡ニ曰ク代議士ノ職務ハ專ラ國民一般ノ事ニ關スルモノナレハ其区内ノ休戚ニ就テモ之カ感覺ヲ存スヘシト雖モ其區ノ意向ヲ迎ヘテ發論ヲ爲スヘカラス而シテ時ノ形情ノ現場ニ顯ハレタル所ノ説明ニ對シテ代議士自己ノ意見ヲ以テ之ヲ判斷スルノ權ヲ附セサルヲ得ス「ト「バイエル國憲法第二十五章誓詞ノ式ニ曰ク予ハ種族院ニ於テ敢テ種族ト階級ノ如何ヲ顧ミルヲ無ク全國一般ノ安全裨益ヲ目的トシ予カ心中ニ証スル所ヲ以テ評議スルヲ誓フ」ト字ナリ〇代議士ハ自由ノ心証ヲ以テ決議ス而シテ他ノ命令

ニ拘束セラレサルモノナリト○英國上院中ニ於テハ議員タル一貴族ノ莅席セサルキハ他議員タル貴族ニ其全權代理者ヲ委任シテ其議決權ヲ有セシムルノ方法アリ是レ曠昔種族制マリシキヨリノ因襲ニ基ツクノ制ナレトモ今日ノ代議制ニ於テハ甚タ不良ナル殘物ナリトス「バイエル」國憲法第十七章ニ曰「上下院ノ議員ハ議事ニ於テ己ノ代理者ニ委テテ代理セシムルヲ許サス」ト

(二) 議院中各々黨派ヲ以テ相分離シ而シテ一黨派ニ屬スル所ノ議員ハ其思惟スル所ノ黨論ニ異ナルト否トニ拘ハラス強テ其黨論ニ一致セシメ以テ之ヲ本議ニ貫キ他黨派ノ論スル所ハ耳ヲ蔽フテ聞カサル等ノヲアルハ決シテ復タ其宜シキヲ得タルモノト謂フ可カラズ尤トモ黨派ノ相

分離シテ各其論ヲ豫決スルヲ以テ本議前備ノ一端ニ供スルモノトセハ黨派ハ黨派無キニ優ル所アルニ幾カラシ然リト雖モ黨派ヲ以テ得失ヲ本議場ニ争フコ至ツテハ其歸スル所一般ノ休戚ニ關係ヲ及ホスカ故ニ如斯ノ強迫ヲ試ムルヲハ敢テ許サ、ルモノトス

(三) 議場ニ於テ議員カ自由ノ發論ヲ制シ放逐スル等ノ危険ヲ以テ之ヲ恐嚇スルハ固ヨリ其許サル所ナリ是レ他ナシ發論ヲ自由ニセシムルハ國民ノ裨益上大ヒニ其効アルヲ以テ立法體ノ各員ハ其立法ノ事ニ關シテ各個ノ思想ヲ充分ニ演へ若クハ其決意スル所ノ言論ニ對シ放逐ノ裁判ヲ受クルヲナシ然レモ其自由ハ概シテ之ヲ立法體ノ局外ニ及スヲ許サ、ルハ當今ノ國法上ニ於テ一般ニ承認シ

テ之ヲ可トスル所ナリ
 (四) 近代ノ諸憲法中率ムテ代議士ノ會期中ハ一議員タモ
 其院ノ允許ヲ經スシテ之ヲ裁判所ニ引致シ糾斷ヲ受ケシ
 ムルヲ許サ、ルノ特權ヲ有スル所以ノモノモ亦他ナシ
 概シテ議事ニ就ヒテハ他ノ制○裁○ヲ○蒙○ム○所○ナ○ク○充○分○之○コ
 參○與○シ○テ○敢○テ○率○制○及○放○逐○等○ノ○ト○ナ○キ○ヲ○確○的○ナ○ラ○シ○メ○ン○ト○
 ノ○趣○旨○ニ○シ○テ○決○シ○テ○漫○リ○ニ○裁○判○上○處○分○ノ○實○力○ヲ○障○碍○セ○ン
 トノ意ニ非サルナリ
 之ニ反シテ議論ノ不法ニ涉ルヲアルキハ之ヲ制シテ其宜
 シキヲ得サシメ止ムヲ得サレハ之ヲ罰スルニ當リテ英國
 ニハ禁錮ヲ以テシ獨逸國ニハ議院外ヘノ放逐ヲ以テスル
 等ノトハ悉ク議長及議院自己ノ注意ニ在ルモノトス抑モ

秩序ヲ紊亂シテ議論激烈ニ涉リ痛ク憤怒シ或ヒハ嫉妬ス
 ル等ノトハ獨リ人民ノ品位ヲ損スルノミナラス猶ホ自由
 權利ヲモ傷クルモノト謂フヘキノミ
 (ロ) 修正ノ動議ヲ發言スルノ權ハ英國人ニ倣フテ通常集
 會員ノ有スル所トセリ然リト雖陸地諸國ニ於テ此權ヲ
 施行スルヤ其當ヲ失スルト更ニ英國ヨリ太甚シキモノア
 リ思フニ之ヲ委員會ニ發シテ自カラ廣ク之ヲ施行スル
 ヲ得ルハ疑ヲ入ル、ニ足ラスト雖到底集會ノ本議ニ附
 スルニハ右申立ハ「モチオン」ノ如ク亦或ル制限ニ循ツテ之
 ヲ致スヲ以テ充分ナリトス其制限トハ集會中ノ事變ヲ防
 制シテ誤謬ナカラントヲ保護シ且ツ之カ爲メニ調子ヲ妨
 ケス法律ノ意ヲ害スルナカラントヲ注意スルモノナリ

(ハ) 議事ノ局ヲ結フニ先キタテ更ニ覆議(按スルニ確定スルヲ云フ)スルヲ以テ止ムヲ得サルトスルハ則チ意志ノ鍛鍊ヲ欲スレハナリ英國ニ於テハ法律草案ノ第三回公讀是ナリ抑モ第一回公讀ニハ議件ヲ議院ニ報告シ以テ之ヲ評議ニ掛クル事ヲ要望スルノミ茲ニハ全議院ニ於テ最初ヨリ問題ヲ吟味セサルコト又ハ申立ノ主義ヲ採用セサルコトヲ決定シタルキノミ其議件ヲ退クルニ過キス而テ之ヨリ尙ホ須要ナルハ第二回公讀是ナリ此公讀ハ屢々拒絕セラル、コトアリ然レモ若シ允許セラル、キハ此公讀ハ則チ條件ヲ確的ニスル所ノ一般小會議ヘノ誘導ヲナスモノナリ而テ今ヤ一般事務ノ全ク鍊熟シタル後チ始メテ第三回即チ終結公讀トナルヲ以テ此第三回公讀ハ只編輯方ノ改訂ヲナスコトヲ許

スノミナリ

陸地諸國ニ在テハ規則トシテ唯ダ一回ノ公讀ノミヲ以テ認可セルモノ率ムテ十ノ八九ニ居ル然リト雖モ茲ニハ通常本會議ヲナス前ニ小會議ヲ開キ而シテ小會議ヲ開ク前ニ方ツテ草案ハ既ニ回附シアルカ故ニ唯一回ノ公讀ハ英國ノ第二第三公讀ヲ兼ヌルモノトス但シ陸地ト雖モ李漏西等ノ憲法ニハ國憲ノ如キモノヲ議スルキハ格別ニ再回ノ議決ヲ取ルヘシト規定シ又「ナリ」ヒ「憲法」ノ如キ稀ニハ諸法律共ニ再回ノ議決ヲ要スヘシト規定セルモノアリ獨逸國會ノ議事章程ニハ規則トシテ數回ノ評議ヲ致スコトト定メ而テ其第一回公讀ニハ議題ヲ詳知セシメ第二回ニハ本議ヲ爲シ第三回ニハ覆審スヘキ結局會議ヲ爲スコトナリ

(二) 素ト亞丁人ノ方法ニハ舊來ノ法律ヲ改正セントシテ
 新タニ作リタル草案ノ爲メ特ニ論破官ヲ置ヒテ本議ヲ經
 ルニ際リ務メテ舊來ノ法律ヲ論破セシムルヲアリ此方法
 ハ維新ノ時代即チ今日ノ世ニ在リテモ一概ニ無益ノ所業
 ナリトモ思料ス可ラス此方法ハ舊來ノ秩序ト新設セント
 スルモノトチ相比較シ以テ舊來ノ善良ナル箇條ハ依然其
 舊章ヲ遵用シ而シテ新設ノ不善ナル箇條ハ之ヲ拋棄ス
 其三 議題ノ採用制可ハ決議ニ依ツテ之ヲ決定スルモノ
 ナリ而テ採用モ亦自由ナリ議事ノ多數ニ決定スルモノハ
 即チ之ヲ全院ノ意志ナリトス抑モ決議ヲ取ルニハ舉手若
 シハ立體若クハ分組等ノ方法ヲ用テ公然之ヲ定ムヘシ就
 中舉手法ヲ以テ先ツ靜肅ニシテ且ツ自由ヲ得タルモノト

議題採
用決議

ス但シ椅子ニ坐スルノ便アルノ故ニ非サルナリ又特別ノ
 原因ヲ有シテ秘密ノ決議ヲ取ラントシテ要シ「ク」按ス
 「ク」按スルトハ玉ト云フ字ニシテ其方法タルヤ黑白二様ノ
 玉ヲ置キ可トスルキハ白色ノ玉ヲ投シ否トスルキハ黑色
 ノ玉ヲ投シテ其意若クハ「ス」按スルヘシ「板」按スルニ可
 否ヲ表スルモノナリ等ノ方法ヲ用ユルヲアレ共是レ唯々稀有ノ
 事ナルノミ元來國民ノ代議士タル者ニシテ敢テ其所爲ノ
 外面ニ發露スルヲ忌憚スルノ謂レナシ公然其爲ル所ヲ示
 スヘキモノナリ然リト雖モ指名法ハ特別ニ須要トスル場
 合ノミニ限リ之ヲ用フルキハ則チ其事宜ニ適スヘシト雖
 モ屢々之ヲ用フルキハ奸計、陰謀及黨派玩弄ノ具ニ屬セン
 ノミ
 議院ノ議決ヲ經タル議案ハ即チ國君ノ鈐印ニ供スヘキモ

ノタリ既ニ「ピル」（按スルニ法律ノ草案ニシテ兩院ノ三回公
讀ヲ經タル後ハ巴厘門ノ書キ物トシテ國
王ニ提出スル）ト成リタル本案ハ國君ニ於テ之ニ鈴印シタ
ル後ヲ始メテ法律タルノ効力ヲ有スヘシ

其四 鈴印ニ依リテ立法固有ノ働作ハ全ク其局ヲ結ヒ法
律ノ公布ハ規則ニ準シテ政府ノ働作トシテ施行セラルヘ
キモノタリ而シテ法律ハ其鈴印ヲ以テ實力ヲ顯ハスモノ
ニシテ之ヲ要スルニ公布ハ止ムヲ得サルノ結果ナリト謂
フヘク決シテ實力ノ本原ナリト謂フ可ラサルナリ但シ國
民ヲシテ其法律ニ結附セシムルハ其公布ヨリ始マルモノ
トスルノ國間々多シ即チ佛國民法第一章埃國法典第二章
等皆ナ然リ而ルニ英國等ニ在リテハ國王ノ鈴印ヲ巴厘門
ニ明示シタルニ乃チ其法律ハ各人ニ結附スルモノト定メ

タリ如何トナレハ巴厘門ニ於テ公ケニ議定シテ其制可チ
受ケタルヲハ遍チ各人ニ周知シタルトスルカ故ナレ
ハナリ北亞米利加人ニ於ケルモ亦此例ニ同シ

第十三款

法律能力ノ區域

立法官ノ權ハ固ヨリ專制ノ權ニ非スト雖モ國家ニ在テノ最上權ナルカ故ニ國家ノ秩序ヲ以テ立法權ノ施行力ヲ制限セントスルヲ難シ由此觀之立法官ヲシテ不法ヲ行ハサランコトヲ確實ナラシムルモノハ他ナシ唯タ立法官自己ノ章程編制ノ内ニ存スルノミ然ルニ立法官コシテ國家ノ大眼目タル正理及一般ノ安寧ヲ期スル所ノ德義上ノ取極メト限域トテ蔑視シテ顧ミサルキハ訴告ニ頼リ以テ之ヲ矯正セントスルモ輒スク其目的ヲ達スルヲ能ハサラン然ルト雖モ或ヒハ法則ヲ以テ立法官放肆ノ行爲ヲ制止スルコトアリ左ニ之ヲ説カントス

其一 新布ノ法律ハ眞ニ憲法ニ準據シテ成リ立ナタルモノナルヤ否ヤニ關シテハ其他ノ國家權柄（按ハスルコト）ハ行政法院若（フ）ト雖モ該法律ヲ適用シ若クハ遵守スベキニ當リテハ亦タ正式ノ審査ヲ致スノ權アルヲ疑テ容ルニ足ラズ例（フ）ハ立憲君主國ニ於テ兩院若シ國王ノ鈐印ナキ法律ヲ告知スルキハ則チ政府及法院ハ其法ニ照ラシテ之ヲ認可スルコトヲ拒ムベシ又タ茲ニ國王法律ヲ設ケ議院ノ決議ヲ經サル可ラサルモ其決議ヲ望マズシテ直チニ頒布スルキハ則チ其法律ハ順序ヲ踐マサルヲ以テ之カ遵守ヲ禁セラルコトヲ得ヘシ

然リト雖モ所謂其他ノ國家權柄ニ於テ其審査ヲ致スモノハ議院ノ組織方ト各場合ニ於ケル決議ノ善惡トニ及フコト

ナシ例へハ議院現員ニ就テ或ル員數ヲ要望シ代議士等カ
 撰取スル所ヲ採用スルト否ルトヲ決定スルヲ如キハ全
 ク議院自己ニ委託セラル、所ナリ必スヤ其所業ハ行政廳
 若クハ法院ノ監督ニ屈從スルモノニ非サルナリ
 其二 法律ニシテ其内容ハ憲法ニ違背スルナルヘシトノ
 嫌疑ヲ挾ムノ甚シキハ之ヲ認許セサルヲアリ
 夫レ立法體自己ハ全國家ヲ惣括シテ之ヲ代理スルモノナ
 レハ或ヒハ憲法ヲ紊スヲアルカ若クハ不法ヲ行ヒシヲア
 ルキト雖モ國家ノ内部ニ在テ其任務ヲ責メテ之ニ刑罰ヲ
 加フル能ハサルノミナラス擧ケテ之ヲ訴告スルヲ能ハサ
 ルコト明瞭ナリトス例へハ國君自カラ其行政ヲ保任スル
 國ト雖モ立法體モ亦責任アルモノナリト説明ス可ラサル

ハ人ノ疑ハサル所ナリ試ミニ自餘ノ諸官廳ニシテ立法官
 ヲ責ムヘシト假定スルモ立法官ハ則チ國家ノ全体ヲ表ス
 ルモノニシテ自餘ノ官廳ハ則チ全体中ノ各部分ニ過キサ
 ルカ故ニ一部分タル分限ニ居ル裁判官ニシテ全体タル立
 法官ヲ裁判セントスルハ猶ホ手足ニシテ全体ヲ制セント
 スルカ如シ豈ニ爲シ得ヘキノ理アラシヤ
 近今ハ新布ノ法律ニシテ其内容或ヒハ憲法ト相矛盾スル
 ナルヘシト謂フニ原因シ其能力ト採用トニ就ヒテ實際亦
 タ之ヲ訴告スルヲ許サ、ルノ國率ムテ十ノ八九ニ居ル
 抑モ立法體ノ權柄ハ其行爲ノ及フヘキ限りハ儼然タル最
 高權ヲ保チ他ヨリ爭フ可ラサル權力ヲ有スル故ニ法院ニ
 シテ法律ノ内容ニ干涉シ其權柄ヲ用テ能力無キ法律ナリ

ト説明スルノ威カアルヲナシ由此觀之法院ハ法律總躰ノ主義上ニ關係ス可ラサルハ勿論ナレモ唯タ各條件ノ適用如何ニ就ヒテ關係スルヲアリ而シテ其各條件ニ關シテ之カ處分ヲナスト雖モ自己ノ分限ヲ顧ミルキハ均シク立法官權柄ノ支配下ニ在ルモノト謂フヘキノミ

右ノ末文ニ記載スル所ノ原則ハ現ニ英國并ニ歐洲陸地ニ行ハレ而シテ其原則ハ國家ノ機關及ヒ其作爲ノ調子ヲ翕ヘ且ツ一和ノ公安ヲ來タスヲ求ムルノ基礎トセリ然ルニ北亞米利加國法ニ於テハ却ツテ之ニ反スル所ノ制ヲ施コセリ即チ法院ニ於テ憲法ニ違背シタルモノト証明スル所ノ法律ハ其能力無キモノト斷定シ之ヲ承認スルヲ禁シ以テ其實行ヲ阻遏スルノ職權ヲ有セシメタリ蓋シ亞米

利加政事家ノ所見ニ依レハ「立法官自己ノ過誤失錯ト雖モ之ヲ醫スルノ良藥アリ是レ憲法ノ貴重ナル所以ナリ」ト理解セリ米國議官ボーザノト氏ハ之レカ本原ヲ主張シテ曰ク「夫レ國民ノ權柄ハ立法及裁判權柄ノ上位地ニ立ツモノタリ而シテ憲法ハ法律ノ上流ニ位ヒシ國民ノ意見ハ其代理者ノ意見ニ超越セサルヲ得ス故ニ立法官カ其法律ニ明示スル所ノ決意コシテ國民カ憲法ニ明示シタルモノト背馳スルキハ則チ裁判官ハ概シテ立法官ノ決意ニ準據スルヲサ必トセス務メテ國民ノ決意ヲ資トシテ之ヲ所置セサルヲ得ス之ヲ再言セハ裁判官ノ裁決コハ必ラス先ツ根本法律ナル憲法ヲ採ル可ク其根本ニ非サル所ノ法律ヲ採ル可ラサルモノトス或ヒハ裁判所ノ裁決ニ附スルキハ其裁

判所ハ之ヲ裁決スルニ當リテ自己ノ論ヲ以テ之ニ加ハ
 ン手ヲ恐ル、モノアレモ是レ決シテ顧慮スルニ足ラス茲
 ニ本廳ノ所業ト支廳ノ所業ト互ニ相撞着スルモノアリ裁
 判所ニ於テ之ヲ裁決セシムルハ必ス本廳ノ所業ヲ取リ二律
 ノ相矛盾スルモノアリ之ヲ裁決スルニハ其後ノ布告ニ係
 ルモノヲ取ルカ如ク敢テ一個ノ自論ヲ加フル所ナシ現ニ
 實際ニ於テ裁判所ハ憲法ニ抵觸スル所ノ法律ヲ破毀スル
 ノ名ヲ藉リテ故サラニ立法官カ憲法ニ準據セタル意見ヲ
 枉ケ一ニ自己ノ專斷ヲ務メタルアリシカ否ナ斷シテ之
 アリシヲ識ラサルナリ而テ裁判所ハ固ヨリ憲法ノ意義
 ヲ説明スルニ過キス必ス我意我見ヲ肆ニスルヲ爲スヘ
 カラサルナリ若夫裁判ニシテ其判決ニ代フルニ專斷ヲ以

テシ之ヲシテ其能力ヲ得サシムル所ノモノナラントスル
 事ハ則チ其結果ノ及フ所概シテ其他裁判ノ働作ニ關スル
 モノ事々物々一トシテ立法官ノ決意ヲ貶斥シ之ニ代フル
 ニ專斷放肆ヲ以テスルノ風習ヲ成サ、ルヲナキニ至ルベ
 シト又此事ニ關シテ高等法院自己ノ辨明ヲ爲シタルヲア
 リ曰ク「憲法ハ法院ニ於テ最高權ノ法律ト見做サ、ルヲ得
 サルヘシトノ原則ヲ排毀スルハ竟ニ法院ハ根本憲法ニ
 對シテ眼ヲ閉チ口ヲ襟シ新布ノ法律ヲノミ惟レ尊敬スヘ
 シト主張スルヲ止ムヲ得サルニ至ルヘシ此ノ如キハ一
 種奇怪ノ所業ニ屬シ今日政柄ノ原則及學問上ニ於テ決シ
 テ許ス可ラサルヲタルモ却ツテ實際ニ密着シテ斷絶スヘ
 カラサルモノナリト傳會スルナルヘシ又立法官ハ仮令憲

法上ニ禁止スルノ明白ナルモノト雖ヒ之ヲ致シテ實地
 上ノ効力アリトスルキハ寧シロ禁止ニ悖ルモ妨ケナシト
 強辨スルナルヘシ而テ此等ノ説ハ立法官ヲ狹隘ナル區域
 内ニ制限スル所ノ同呼吸道ヲ跳脱シテ實際上一ノ無限權
 ナ附與スルモノト謂フヘク之ヲ竟ルニ立法官ハ絶テ其制
 限ヲ守ラス專ラ其放肆ヲ以テ之ヲ蹂躪スルモ可ナリト説
 明スルニ等シカラントス其レ豈ニ如斯ノ理アラザヤト
 此辨明中或ハ見ルニ足ルベキモノアリ其論旨ヲ考フルニ
 立法官カ道德上及思想上ノ制限ハ外部ノ支柱物ヲ以テ之
 ナ鞏固ニセソト企圖スルニ在リ是レ政事家ノ心ヲ注テ
 得失如何ヲ考究スル所ナリ而シテ亞米利加ノ制ニ據ルキ
 ハ法院ハ其權柄ヲ以テ自カラ立法ノ權柄ヲ襲ハントスル

歎ノ危懼ナキニシモ非スト雖ヒ實ニ稀有絶無ノト謂フ
 可キノミ如何トナレハ裁判官ニシテ一朝各場合ニ於テ最
 上ノ國家權カ説明スル所ノ決意ニ反對シ及右最上權并政
 府ニ抵抗シテ憲法ノ條理ヲ保護セントスルニハ必ラス常
 ニ強盛無比ノ氣鋒ヲ要スレハナリ到底立法官ノ過誤失錯
 ナ矯正セソト企圖シ或ヒハ法律ノ憲法ニ違背スルトア
 ルニ就キ裁判上説明ノ結果ハ立法官ニ命シテ再度ノ審査
 ナナサシムルノ外ニ出テサルモノトセハ則チ宜シク先ツ
 亞米利加ノ制ヲ取ルニ安ニスルモ蓋シ實害ヲ見サルヘシ
 然リト雖ヒ人ノ志想ハ千萬別甲ノ是ナリトスル所モ乙
 ハ之ヲ非ナリトシ素ヨリ一定ノ意見ヲ保チ難キモノナレ
 ハ則チ茲ニ立法官カ制定スル所ノ法律ハ立法官ニ於テ必

ラス憲法ニ準據スルモノナリト固信シテ疑ハス自カラ好
 ノテ施行スルモノト雖モ一朝爭論ノ材料トナリ之ヲ判決
 スル所ノ法院ハ復タ一種異ナル意見ヲ執リ其執ル所ノ意
 見ハ自カラ憲法ニ資リタルモノナリト確信シテ回ラサル
 カ如キコアルヘシ然ルニ亞米利加ノ制ニ據レハ此ノ如キ
 場合ニ至リテハ必ラス立法ノ高權柄ハ反テ裁判ノ卑權柄
 ニ屈從シ總國民ノ代議士ハ國家中ノ一機關ト評斷シ自
 カラ一機關ノ配下ニ立タサルヲ得サルヘシト考定スルニ
 至ラズ誤ルモ亦甚シカラスヤ且夫斯ル方法ニ從ヘハ國家
 和合ノ道ハ破滅シテ復タ保維ス可ラス偏ヘニ擾亂ト不和
 チ起シ來ルノ媒介ヲ爲スヘキノニ殊ニ當今ノ裁判官ノ本
 質ヲ尋ヌレハ主トシテ私法上ノ規矩ト法理ノ關係ヲ判決

スヘキモノニシテ之ヲ要スルニ體式論理ヲ審明スルニ過
 キス然ルニ其本質ヲ踰越シ往々立法官ノ職掌ヲ以テ判決
 シ及時宜ニ應シテ酌量スヘキ最緊要ナル國法上ノ裨益ト
 一般ノ休戚トニ干與スルコトアルニ就テ熟慮スルモハ則チ
 歐洲ノ制ハ固ヨリ禍害ヲ防遏シ得ル所ノ全備ノモノニ非
 スト雖モ選カニ亞米利加ノ制ニ優レルモノトス且夫假リ
 ニ法院ノ判決ヲ要スルモノトセハ萬一ニモ最上等法院ニ
 於テ不條理ノ判決ヲ致スコトアリモ決シテ之ヲ制スル所ノ
 法ノ手段ナシ故ニ立法官ナルモノハ其組織方ニ於テ決シ
 テ憲法ニ違背スル所ノ精神ヲ以テ施行スルコトナシト謂ヘ
 ル最モ須要ノ保任ヲ負擔スルモノタルヲ以テ其權柄ハ他
 ヲリ牽制ヲ受ケ抗爭ヲ容ルコト能ハサルモノト定ムルヲ

可ナリトス
 近時ナボレオン第三世千八百五十二年一月十四日ノ憲法
 ヲ以テ憲法及條理ニ違背スルヲ含有スル所ノ法律ニ對
 スル保任ノ新法ヲ設ケ即チ元老院ニ於テ憲法及條理ニ違
 背スルヲ含有スル所ノ法律ナリト檢定スレハ之ヲ排斥
 スルノ權ヲ附與セリト雖此檢視ハ法律ヲ布告スル前ニ
 在リテ公布後ニ致サ、ルヲナルカ故ニ其働カハ二院設置
 ノ制ニ因リテ附與サレタル所ノ體裁タル兩院ノ決定法ニ
 及ハサルナリ
 其三事ノ輕重ヲ問ハス概シテ天然ノ條規ニ注意シテ宜
 シク審議ヲ盡スヘキハ是レ立法官本然ノ義務ナリトス如
 何トナレハ法律ナルモノハ其本體ニ於テ天然法ヲ憲彰ス

ルモノナリ決シテ專制獨斷ヨリ出ル所ノ產物ニ非サレハ
 ナリ
 然リト雖若シ立法官ニシテ此義務ヲ顧ミサルコトアル乎
 若クハ其職權上ノ廣域ナルコトニ乘シテ疎暴ノ行爲ヲ用
 ヒ妄リニ天然條規ニ悖戾スル所ノ法律ヲ施クコトアルハ
 則チ須ラク法院ノ權柄ヲ以テ其働カヲ拒絕セシムルコト
 得ヘキカ否ナ法院ノ卑權ヲ以テ立法ノ高權ニ抗スルハ決
 シテ其許サ、ル所ナリ然ラハ則チ之ヲ如何スレハ可ナル
 乎曰ク唯々之レヲ改良シテ以テ其正鵠ヲ得サシムルノ道
 ハ立法官自己ノ權ヲ以テスルノ外ハ國家ニ於テ一ツノ手
 段アルナシ例ヘハ不條理ノ法律ト雖此既ニ頒行中ニ係ル
 限リハ國家所屬ノ機關(按院等ナル云フ法)ニ在リテハ猶ホ之ヲ能

カアルモノトシテ遵守セサルヲ得ヘカラサルモノタリ
 其四又茲ニ丙者ノ有スル既得權利ナルモノアリ按スル
 丙者ト云フハ立法官ヲ甲者ト看做シ通常一般ノ者ヲ乙者
 トシテ右甲乙兩者ニ對照シ所謂既得權利ヲ有スル者ヲ
 丙者トナシテ言立法官ハ宜シク其權利ヲ貴重シ敢テ之ヲ
 毀傷セサランコトニ注意スベシ是レ亦タ其義務ナリトス
 抑モ既得權ノ何物ナルカヲ解釋センコトハ須ラク先ツ或ル
 各個人若クハ同屬及法律上ノ人ニテ自分一個ノ權利トシ
 テ所有セシモノヲ以テ所謂既得權ナリト定ムヘシ而シテ
 立法官ハ一個人カ有スル所ノ權利ノ圍内ニ正シク干涉ス
 可キモノニアラス但シ左ノ件々ヲ區別センコトヲ要ス
 (イ) 特有セシ純粹ノ政權 斯政權ナルモノハ亦或ル個
 人ニ附着シテ特有セシモノニシテ例ヘハ君主ノ主權ニ於

ケル、其血統ノ儲位權ニ於ケル、領主ノ裁判權、官吏ノ官、職權、
 貴族ノ「ベール」タル議決權ニ於ケルカ如キモノ是ナリ然ル
 ニ此等ノ權タルヤ唯タ右人々自己ニノミ附着セル所ノ一
 私權ニ非ス固トニ全國家トノ關係ニ於ケル公權トシテ其
 人ニ特有セルモノタリ乃チ此權ヲ保全スルモノハ國家現
 存ノ狀態ニ關係スルモノニシテ國家外ニ在リテ一ノ意味
 ト一ノ能力ヲ有スルコトナシ故ニ國家ノ現存ト公安トニ矛
 盾スルコトアルニ於テハ復タ一ノ本然ナル權利ニ非ストス
 例ヘハ中古ハ該權ヲ親ルコト猶ホ私權利ノ如ク儘々之ヲ賣
 買スルモノアリシト雖モ右本論ノ主義ニ於テハ聊カ變更
 スルノ理アルコトナシ抑モ中古ニ於テ屢々該權ヲ私權利ノ
 如ク賣買シタルモノハ當時未タ事理ノ分明ナラサルニ職

トシ是之ニ由ルモノニシテ管タニ該權ニ於ケルノミナラ
 ス其他ノ私權ト公權トヲ混合シテ其用法ヲ誤リタルモノ
 往々勘シトセス然リ而シテ今日ニ在リテハ嚴ニ之レカ區
 別ヲ制立シタル上ハ仮令ヒ初メハ私權利ノ如キ用法ニ依
 リテ所有シタルト否トニ論ナク素ヨリ公權ニシテ敢テ私
 權タルノ性質ヲ含蓄セサルヲ以テ之ヲ公權ニ属スルモノ
 ト定ムヘキハ當然ナリトス由此觀之本然ノ道理ニ基ツキ
 タル國家ノ秩序ト憲法ニ準據スヘキ體裁上ニ於テ苟クモ
 不都合ナルコトアルハ立法官ハ之ヲ廢シ若クハ變更スル
 一ノ權アルモノナリ若夫立法官ニシテ之ヲ廢棄シ又ハ變
 更シタルニ由リテ其賠償ヲ致サントスルコトアレハ其所置
 ニ適應ナル方法ヲ施スモ亦可ナリ然リト雖モ之ヲ以テ立

法官本然ノ義務ナリト看做スハ不可ナリトス
 (ロ) 茲ニ既得權トナリテ各個人ノ所有ニ屬スル得分ニシ
 テ前項述ブルガ如キ公權ニ結附シタルモノアリ例ヘハ民
 間ニ在リ坐カラ爵位ノ爲メニ享受スル所ノ給料、皇族ニシ
 テ「アパナトーゲ」(按スルニ政務ニ干與セス)ヲ得ルノ權、一市
 府民ニ限リテ專ラ技術所及慈善所ヲ使用スルノ權等所謂
 公權中ニ於テ一個人ノ權即チ私權ヲ含有スルヲ以テ立法
 官ハ宜シク其私權タルノ部分ヲ保重シ敢テ毀傷セサラソ
 一ヲ要スヘシ設シ此既得權ニシテ或ヒハ公安ヲ妨クヘシ
 トノ物議ヲ生スルコトアルカ爲メニ止ムコトヲ得ス之ヲ變更
 シ若クハ全廢スルキハ則チ其損失ヲ受クル所ノ人ニ對シ
 テ之レカ賠償ヲナサル可ラサルノ義務アルモノトス是

一〇〇 一
レ即チ立法官ノ權ヲ以テ此事ニ關係スルモノヲ制限スル
所ナリ

(ハ) 此釋義中純粹ナル私權利ノ圍内ニ係ル所ノモノヲ以
テ最モ緊要ナルトス蓋シ私權ノ性質タルヤ全ク私人ニ
關スルモノニシテ敢テ國家ニ屬スル所ノモノニ非ス一個
人ニ屬シテ國民ニ屬セサルモノタリ故ニ私人カ有スル所
ノ既得權ヲ貴重シ務メテ之ヲ保護スルハ即チ國家本然ノ
職務ナリトス然ラハ則チ立法官ニ在リテ或ヒハ私人カ有
スル所ノ既得權ヲ滅絶シ若クハ毀傷スル等ノトアルキハ
所謂足チ他人ノ田畝内ニ投シテ其植物ヲ蹂躪スルニ等シ
カラントス然レトモ各個人ハ其權利ノ範圍ヲ以テ自營シ
各自相集合シテ社會ヲ成スモノタルニ因リ其成立ツ所ノ

一〇一
私權ニハ亦タ立法官ニ於テ之カ制限ヲ加フルノ權アリト
ス例ヘハ社會ノ公安ニ關係スル裨益ノ爲メニ建築規則ヲ
設ケテ建築ノ自由ヲ制限シ又ターノ法律ヲ以テ隣接間ノ
關係ヲ調理シ若クハ職業ノ制限ヲナス等ノ如シ然リト雖
モ私權利ニシテ他ニ關係ヲ有セス獨立獨歩ノ性質ヲ佩フ
ルト愈々強ケレハ國家ニ於テ之ニ干渉スルトモ亦彌々甚
ナカルベシ若夫一般ノ安寧ヲ増進スルノ公益上ニ基ツキ
止ムチ得ス國家ニ於テ之ニ干渉セントスルニ當リ一個人
ノ孤立權ニシテ全國家ノ權利ト抗爭ヲナスキハ立法官ハ
宜シク全國家ノ權利ヲ伸張シテ之ニ屈從セシメサルヲ得
サルハ勿論ナリト雖モ斯ル場合ニ際シテ其犧牲タラント
要望スル所ノ國家ハ其權利ノ損害ヲ蒙ムル所ノ一個人ニ

二〇一

對シ充分ノ償ヲ出シ以テ之ヲ追復スヘキモノタルヲ忘
 失ス可ラサルモノトス而シテ私人ニ在リテハ止ムヲ得ス
 自己ノ既得權ヲ失ヒ若クハ公安ヲ顧念シテ其權利ヲ停止
 スルヲ以テ之カ辨償ヲ要求スルノ權アルヲハ素ヨリ論ヲ
 待タズ抑モ此要償ノヲタルヤ條規條令ノ力ヲニ賴ルニ非
 ス又タ法律ノ產物ニ非スシテ固ヨリ當然ノ理由ニ原因ス
 ルモノタルカ故ニ斯ル場合ニ於テモ亦タ他ノ私權利ノ如
 ク此既得權ノ爲メニ裁判上ノ保護ヲ仰クヲ得ヘシ然レ
 モ若シ法律ニテ明カニ其辨償ヲ禁止シ將タ不充分ノ辨償
 方ヲ定メタル成規アルニ限リ裁判官ハ仮令不當ノ法律
 ナリト思料スルモ之ニ抗抵スルヲ許サズ謹ムテ其成規
 ヲ墨守シテ之ヲ處分ス可シ

三〇一

公安ト一個人ノ權利トノ間ニ非常ノ紛議ヲ生シタル場合
 ニ於テハ國家ノ強量權ヲ以テ之ニ干涉シ以テ一個人ノ權
 利ヲ枉屈スルヲハ是國家立法ノ例外權柄ト稱ス此例外權
 柄ヲ用フルハ國家危急ノ時ニ瀕シ惟タ其危險ヲ救治スル
 モノニシテ實ニ止ヲ得ル能ハサルノ權畧ニ出ルモノナレ
 ハ苟クモ輕忽放肆ノ使用ヲ爲スルハ國家自己ノ德義ハ自
 ラ腐敗ニ屬スト謂フヘキナリ
 其五 外國トノ國約上ニ成リ立ツ所ノ權利ハ假令ヒ自國
 立法權ノ爲メニ損傷ヲ蒙ムルヲアルモ萬國公法ノ保護ニ
 賴リ以テ立法官ノ權ヲ制スヘキ方便ヲ有セリ
 茲ニ人アリ外國ト締結シタル國家ノ條約面ニ基キテ成立
 ツ所ノ權利ニシテ自國立法權ノ爲メニ損害ヲ受クルヲア

ルキハ則チ萬國公法ノ保護ヲ仰クヲ得ヘシトセハ是即
 チ立法官ノ權ハ此萬國公法ヲ以テ制限セラル、モノタリ
 故ニ國內ノ臣民ヨシテ愛國心ト臣民タル義務ヲ傷フナ
 ク右ノ國約ニ準據シテ或ル一事ヲ爲スニ當リ該國立法權
 ノ爲メニ損害ヲ受クルコトアル場合ニ方リテハ其權利ヲ保
 任スル所ノ外國ニ頼リ萬國公法上ノ助力ヲ仰クヲ得ヘ
 シ如何トナレハ該人ノ從事セシ條件ハ當初之ニ從事シ得
 ヘキ權利ヲ保有シテ契約セシ事柄ニ係リ外國ノ助力ヲ仰
 クトハ謂ヘ素トヨリ其事柄ハ本國自己カ結ブ所ノ條約ニ
 準據シタルモノニシテ其本國自己ニ於テ其人ノ爲メニ認
 可シタル所ノ訴訟法ヲ用ユルコトタレハナリ然リト雖也是
 等ノ理由ヲモ顧ミス本國ノ政畧ト獨立國タルノ躰面上ニ

リ論下スルキハ外國ノ助力ヲ藉ルコトハ甚ダ異シムヘキモ
 ノアリ

之ニ反シテ國家躰ノ各手足間（接スルコト一局部ニ）ニ取結ヒ
 タル條約コトハ右ニ述ルカ如キ保護ヲ仰クヲ得ヘカラ
 サルモノトス

北亞米利加ノ國法ニ依レハ合衆國ヨリ取結ヒタルカ若ク
 ハ保任シタル所ノ國約ニ準據シテ更ニ他ノ外國人ト契約
 セシ私約ニ關シ立法議會ニ於テ其權利ヲ毀傷スルコトアレ
 ハ之カ毀傷ヲ蒙ムリタル一個人ヨリ裁判上ノ保護ヲモ仰
 クヲ得ルモノト定メタリ

五〇一
 其六 聯合ノ各國ニ在リテハ聯合憲法ニ據リ聯合國全部
 ニ於ケルノ權利ヲ安全ニ保有スル所ノ大機關ヲ具フルヲ

以テ其各國ノ立法權ハ成規ノ條則ニ依リ亦之カ制限ヲ受
 シルヲタリ是其大機關ナルモノハ其各國ノ最大高權ヲモ
 管理スル所以ノモノナレハナリ即チ獨逸憲法ニ於ケル大
 審院ヒスカムメルグレイヒト是ナリ○北亞米利加ノ最上等法院ハ此事ニ關シ甚ハ
 タ其廣大ナル權域ヲ有セリ然ルニ北亞米利加人ハ其他ノ
 事ニ就ヒテ裁判權柄自己ノ能力ハ甚タ廣大ナルニモ似ス
 他ノ諸國ニ於テ充分實際ニ缺クヘカラサルモノトシテ之
 チ執行スルニ反異シ却ツテ一個人ノ權利ヲ抑制シ訴訟權
 チ與ヘサルモノアルハ頗ル奇怪ノ制裁ナリト謂フヘキモ
 ノアリ例ヘハ債主タル一私人ヨリ負債主タル合衆國自己
 (按スルニ政)若クハ各國(按スルニ各國)ニ對シ其權利ヲ全フ
 (府)云フニ云フ政府ヲ云フニ對シ其權利ヲ全フ
 センカ爲メニ之ヲ被告トシテ出訴スルモ此ノ訴訟ヲ受理

シテ裁判スルノ權ナシ但シ千七百八十七年ノ憲法ヲ案ス
 ルニ之ト相反シテ或ヒハ受理スヘキヲ取極メタルモノ
 、如ク見フル所アレハ該國爲政家一般ノ所論ニ依レハ國主
 權ヲ有スル國ニハ一モ訴訟ヲ受ケサルモノト論定セリ(嘗
 テ羅馬人ニ在リテハ國家ニシテ債主若クハ負債主ナリト
 見ルキハ國家ハ其國主權ヲ脱シ而シテ「ヒスクス(按スルニ國幣ノ義)
 トシ全ク私人ニ等シキモノト見做シタリ)○瑞西ニ於テハ
 聯合集會ハ聯合憲法及ヒ聯合法律ノ裨益ノ爲メ並ニ各州
 憲法ヲ保任センカ爲メ各州ニ於テ立法權ヲ濫用スルコト
 レハ亦タ之ニ干涉シテ其所置ヲ爲シ又ハ如斯國法上ニ係
 ルノ事件ハ聯合裁判ニ附シテ之レカ判決ヲナサシムルノ
 權アリ○獨逸國憲法(第七十六章)ニテハ聯合各國中ノ公法

權利上ノ爭論アルキハ聯邦議院ヨリ之レカ所置チナシ及
 聯邦ノ一國內ニ於テ憲法ニ關スル爭事アレハ聯邦議院取
 テ之ヲ勸解ス若シ此勸解ニシテ誤謬アルキハ獨逸國法律
 ニ照ラシ之ヲ處置スベシト定メタリ後世ニ至テハ萬國公
 法ノ開進チ來タシ是等ノトニ關シテモ亦當サニ訴訟法ヲ
 設ケ總テ立法體無限權ノ爲メニ生スル所ノ缺典ヲ改訂ス
 ルニ至ルナルベシ

其七 終リニ臨ムテ尙ホ記載スベキ一事アリ即チ法律ハ
 一モ既往ニ溯ルノ力ヲナシ否ナカラアルトチ許サ、ルト
 ノ主義是ナリ

法律モ亦タ爲ス能ハサルトチ強ヒテ爲サシメントスルモ
 ノニ非ス又既ニ完結セシモノチ破リテ再ヒ完結セサル初

メニ復セシムルコト非ス隨テ過去ノトニマテ溯ホリテ之ニ
 干涉シ過去ノトチ變更スルヲ得サルモノタルハ論ヲ竣タ
 スシテ明ラケシ

或ヒハ法律ニシテ既往ニ及ホスヘキカラアリトスルトア
 レハ是決シテ本然ノ道理ニ適セサルトナリ法理上ヨリ論
 究スルハ法律ハ固ヨリ既往ニ溯ラサルヲ以テ不易ノ原
 則ト定ムルカ故ニ既ニ成立チタリシ公事ニ關係アル所業
 (按スルニ公証人ノ關係セシ契約又ハ)ニ對シテハ其所業ノ
 公權ニ屬スル事柄ノ如キ種類ヲ指ス)ニ對シテハ其所業ノ
 實行ヲ完結スル中間若クハ完結シタル以後ニ發布シタル
 法律ニ據リ之ヲ處分スルトチ許サス之ヲ概スルニ業已ニ
 得タル所ノ權利ヲ破毀シテ追改復舊スルトチ許スチ得可
 ラサルモノナリ但シ新布ノ法律ニシテ新タニ改定スルノ

精神ニ出スシテ唯タ解釋ノ性質ヲ具有スルモノニ限り其
 解釋ヲ適用スルニ就テ特ニ時限ノ定基ヲ建テサルキハ則
 チ其以前ニ生セシ所業ノ解釋ニモ適用セラルヘキヲ疑ヒ
 ナシ(按スルニ例ハ將來又ハ前年日月ヨリ施行スヘキト
 ラルヘキヲ示サハ將來又ハ前年日月ヨリ施行スヘキト
 コ非スシテ唯タ如何トナレハ創定又ハ改定ノ法律)由之觀
 之右ニ述フル所ノ章句ハ主トシテ法律解釋法ノ規矩ヲ示
 スモノナレハ則チ自ツカラ立法制限ノ一部ニ居ルモノト
 ス然リト雖モ既往ノ所業ヲ處置セントスルニ當ツテ苟ク
 モ既得ノ權ヲ毀傷スルヲ無ク職ハラ其所業ニ惠ミテ與
 カ爲メ新タニ法律ヲ布ヒテ之ヲ解釋シ以テ寬典ニ處スル
 ノ主義ニ出ルモノハ此限りニ非ス例ヘハ各重罪犯ノ爲メ
 ニ仍ホ罪名輕キ所ノ新刑法ヲ用フル事或ハ各事件ニシテ

前時ニ在テハ刑罰アルモノト明示シタルモノヲ放免スル
 所ノ新律ヲ用フル事又ハ或ル所業ニシテ式ノ嚴ナルカ爲
 メ實行スルヲ能ワサルキニ猶ホ一層輕便ノ要件ヲ許ス所
 ノ新法ヲ布ヒテ其効力ヲ生セシムルモノ例ヘハ遺囑法ノ
 體式ヲ簡畧ニスル事等ノ如キハ宜シク例外ニ置クヘキモ
 ノナリトス而シテ此例外ノモノタルヤ羅馬人ノ所謂ベ
 グナ、イ、ン、テ、ル、ア、レ、ク、チ、オ、即チ慈仁ノ解釋法ヲ以テ主義ノ
 嚴格ヲ調和シ其事ニ補益スルモノナリ

國士論

國士ナルモノハ其本然ノ意義ニ依リテ之レヲ釋明スレハ
 拔群超類ニシテ國民中ノ高級ニ居ル者ヲ云フ故ニ國士ヲ
 ラン者ハ政權ニ參與シ殊ニ代議制ヲ設クルノ國ニ在テハ
 代議士ノ撰舉被撰舉權ニ干與スルモノトス○此意義ニ依
 レハ國士權ナルモノハ先ツ「ホルクス、ゲノツセン、シヤーフ
 ト」（同一政治ノ國內ニ生活スル）ヲ基本トシテ立ツル所以ノ
 モノニシテ即チ國家一般ノ政權ニ干渉スルヲ得セシメ
 殊ニ各個人カ國家ニ對スル政權上ノ關係ヲ明示スルモノ
 ナリ

古代希臘及ヒ羅馬國ニ於テハ此國士權タルノ性質ハ支配

スル所ノ都人士各個ノ榮稱ニ結附シ中古ノ上期ニ當リテ
 ハ自由權ヲ得タル種族ヲ稱シ中古ノ下期ニ至リテハ種族
 タル所ノ權利及ヒ領地ヲ有スルモノヲ稱セリ然ルニ國家
 現今ノ制度ヲ考フルニ右ノ性質ハ痛ク其周圍ヲ擴充シ或
 ル數國ニ在テハ殆ント「ホルクス、ゲノツセン、シヤーフト」ヲ
 以テ之レヲ目シ全國民ヲ總稱スルニ至レリ
 近今ノ國法上ニ於テハ一般ニ公認スル所ニ因リ左ノ件々
 ナ制限セリ

(一) 婦女

國家凡百ノ政畧ハ實ニ男子之事業ニ係ル
 カ故ニ婦女子ハ參政權ヲ有スヘキモノニ非ラス惟タ男子
 ニ限リテ之レヲ有スルモノトス

(二) 未丁年者

政權獨立ノ執行ハ定メアル所ノ精神ノ熟

練ヲ要ス故ニ幼者及ヒ未丁年者ハ之レヲ除ク者トス
 近今ハ各國トモ政權上ノ丁年ト私權上ノ丁年ヲ殊別セリ
 而シテ政權上ノ丁年ハ私權上ノ丁年後ニ定ムルヲ以テ固
 トニ適當ノ制ナリトス若夫私權上ノ丁年ヲシテ政權上ノ
 丁年後ニ置クカ如キハ太々不適當ノ制ナリト謂ハサルヲ
 得ス何トナレハ一家生計ノ事務ヲ調理スルハ敢テ難事ニ
 非ラストスルモ國家ノ政略上ニ關スル利害得失ヲ考究シ
 代議士撰擧ニ就テ人物ノ當否如何ヲ判斷スルハ實ニ容易
 ノ事ニ非ラス其難易ハ日ヲ同フシテ論スヘカラサレハナ
 リ北亞米利加佛國英國ニ於テハ二十一歳ノ終ルヲ竣テ直チ
 ニ政權上及ヒ國士タル丁年ニ列シ獨逸中一二ノ國即チ「ハ
 イエル」國等ニ於テモ亦然リ字漏西及ヒ獨逸國西班牙伊太

利國等ニテハ政略上ノ撰擧權ハ二十五歳後ニ埃國ニテハ
 滿二十六歳ニ始マレリ而シテ瑞西各州ニハ通例滿二十歳
 ナリ以テ政權上ノ丁年者ニ加ハリ却テ私權上ノ丁年ニ先キ
 タツノ制ナリトス

(三)國士タル榮譽ノ適格ニ就ヒテ缺漏スル處アルカ若シク
 ハ公權ヲ剝奪セラレタルノ輩ヲハ之レヲ除名スヘシ例ヘ
 ハ處刑ヲ受ケタル者、稟告サレタル失踪人、風癪人、及ヒ貧窮
 ニシテ公ケノ救助ヲ受クル諸人ノ如シ是レナリ

此外尙ホ左ノ要件ヲ以テ國法上ニ示ス所ノ國々多シトス
 (四)國家臣民外部現存(按ニ關スル外部現存トハ生)ノ獨立ノ定
 度ニ適スル事但シ此獨立ノ度ヲ定ムルノ方法ハ各國共其
 趣向ヲ異ニセリ

舊日耳曼法ノ趣旨ニ據レハ殊ニ土地若クハ家宅即チ自カ
 ラ竈戸ヲ設クル者チ所有スルモノヲ以テ獨立ノ定度ニ適
 スルモノナリト認定シ新日耳曼法ノ趣旨ニ依レハ獨立ノ
 一職業ヲ營ミ損益ヲ己レニ歸スルモノニシテ「アクト」フ
 エ、ゲマインデ、ピユルゲル（按スルニ議事決シ無給ノ町村官吏
 任ニ與ル行政及立法者ヲ撰任シ及ヒ被撰ノ組ニ入ル者
 以テ適格ノ者ト定メタリ）○舊日耳曼法ノ趣旨ハ近年ニ
 至ルマテ英國及ヒ北亞米利加ノ一二國ニ行レ新日耳曼法
 ノ趣旨ハ獨逸中或ル國々ノ新憲法ニ存在セリ○此方法ニ
 從ヘハ奴僕トナツテ他人ノ配下ニ隸屬スル所ノ者ハ與カ
 ルコトヲ得ス又製造所ノ下等職工ハ之レヲ除キ及ヒ手工
 會社ノ傭工人ノ大半ハ之レヲ除クノ制タリ

之レニ反シテ他ノ國々ニ於テハ輒近稍ヤ普通撰舉論ニ傾
 向シ右ニ述フル所ノ要件ハ自ラ弛廢ニ付スル情勢ヲ倣シ
 太ハダシキハ全ク之レヲ採用セサル者ナルニ至レリ即チ
 千八百三十年來ノ瑞西新憲法、千八百四十八年法朗西共和
 國憲法及ヒ法朗西帝國憲法千八百六十七年獨逸北部聯邦
 ノ憲法千八百七十一年獨逸國憲法及ヒ千八百六十八年西
 班牙憲法等ノ如シ○現今北亞合衆國ニモ亦普通撰舉法ヲ
 行ハントスルコト汲々タリ抑モ斯ノ如ク普通撰舉ヲ以テ
 一般ノ贊成ヲ得ル者ハ他ナシ時勢ノ自ラ民主政ニ傾斜ス
 ル所以ニシテ復タ以テ世ノ風潮ヲトスルニ足ルヘキナ
 リ

（五尙ホ又或ル國々ノ制ニ在テハ國士權ヲシテ必ス定メテ

ル財産ノ度(按スルニ茲ニ財産ト云フハ不動産及ヒ財産)
 適スルヲ要スルモノアリ蓋シ撰擧權ヲ分配スル事ニ付
 財産ヲ以テ要件トスルトキハ仮令ヒ其人ハ徳義ト精神ニ
 於テハ國家ノ政界上ニ干與スルニ適合シ且ツ一私人タ
 ルニ於テモ亦タ充分自主獨立ノ人ナリト雖モ唯タ定度ノ
 財産ヲ有セサルカ爲メニ應サニ國土權ニ與カルヲ得ハ
 ルヘシ是レ豈ニ國家ノ本旨ニ戾ルモノニ非スシテ何ソヤ
 故ニ此ノ方法ノ主義ニ遵カヒ其適宜ヲ制セントセハ則チ
 特リ土地不動産及ヒ財産資本ニ止メス更ニ收入得益アル
 者チモ算入シ而シテ其度ヲ定ムルニ至リテハ宜シク常ニ
 生計上ノ需用ニ不足セサルヘキ丈ケノ者チ有スルヲ以テ
 能ク其度ニ適スル者ト定ムルトキハ則チ右要件ニ對シテ

必スシモ多量ヲ要セス所謂國家ノ本旨ニ戾ルカ如キ不都
 合ノ餘弊ヲ生スルヲナク隨テ前文記載スル處ノ獨立立法ノ
 主義ニ合ナヒ自ラ其歸スル處ヲ同フスルヲ得ヘシ果シテ
 斯ノ如クスルトキハ財産ヲ以テ之レヲ判斷スルノ制トナ
 スモ敢テ不可ナルコトナカルヘシ○北亞米利加憲法千八
 百四十八年「バイエル」ノ憲法及ヒ埃國李漏西國ノ憲法ニ載
 スル處ノ定制等ハ撰擧權ヲ得ルニ直稅ヲ拂フ者ヲ以テ分
 限トスルノ制ニシテ即チ此意義ニ準據スルモノナリトス
 (六)基督キリスト教ヲ以テ國教トスル國々ニ於テハ最近世ニ至ルマ
 テハ特ニ同宗教ヲ信仰スル者ヲ要セリ其他ノ宗徒即チ猶
 太若シハ「モハメット」宗等ヲ信仰スル者ノ如キハ別ニ其布教ノ
 禁制ナキモ國土權ヲ得ルコト能ハサリキ中○古ノ時代ニ在

リテハ宗教ト權利、教會ト國家ハ最モ密着ノ關係ヲ有セシ
 〇因リ其何人タルヲ問ハス宗教上ノ交通ヲ除カレタル者
 ハ併セテ政事上ノ交通ヲモ除カレタルノ風習タリ是故ニ
 不信仰者ニ於テハ格別都合能キ場合ニアラサレハ政事ニ
 參與スルノ許諾ヲ受クルコト能ハス適々々有之モノハ非常
 ノ特許ニ出ルノミ適々々非常ノ特許ヲ得タルトキト雖モ
 政界上ニ對シテ信仰者ト同一ノ權ヲ有スルコト望ムヘカ
 ラサルハ言ヲ竣クサル所ナリ
 齊シク基督ノ宗教ニ出ルト雖モ其信仰ヲ異（按スルニ基督
 隨テ各派其教義ヲ異ニスルモノヲ云フ）ニシテ國法上ニ於テモ
 亦タ或ル門派ノ信仰者ニ限り其大價ヲ附着スルノ國アリ
 例ヘハ「カトリック」宗ヲ以テ國教トスルノ國ニ在リテハ

其宗教ヲ信スル者ノミニ限り又「プロテスタント」宗ヲ以テ
 國教トスルモノハ其宗教ヲ奉スル者ニ限りテ充分ノ國土
 權ヲ附與セルカ如シ乃チ「ウエストファール」ノ和約ノ時モ亦
 タ獨逸國ノ爲メニ「カトリック」宗ヲ信スル者ト「プロテス
 タント」ヲ奉スルモノトハ唯タ私權上ニ於テノミ同等ノ權
 利ヲ有スルモノト確定セシト雖モ政權上ニ於テハ一モ之
 レカ確認ヲ與ヘサリシナリ其後千八百十五年獨逸同盟公
 文ニ「カトリック」ル「テラン」及ヒ他ノ新宗派ニシテ公認
 ヲ經タル處ノ基督教内ノ門徒ハ政權上ニ關シ同一ノ權ヲ
 保スル旨ヲ明記セリ然レトモ自餘ノ小宗派ノ門徒ニ至リ
 テハ右同様ノ權ヲ有スルヤ否ヤハ未ダ確示セラレサリシ
 獨逸同盟公文第十六章ニ曰ク基督宗派ノ差異アリト

雖モ獨逸同盟ノ國々ニ在リテハ私權及ヒ公權ヲ得ル
トニ就テハ一ノ差異アルヲナシト

今ヤ法理ノ開發ニ乘シ一種異ノ方向ヲ取り政權ヲ執行ス
ルニ就テハ毫モ宗教信仰ノ如何ニ關係セサルヲ説明ス
ルノ國アリ此新方向ヲ取りタル所以ノモノハ宗教ハ固ヨ
リ政事上ニ關係スルノ理由ナク全ク相分離スヘキモノナ
リトノ主義モ亦タ少シク與カリテ力ヲナシト謂フ可ラサ
ルモ單ニ其論理ヨリ生セシ所ノ結果ナリトシテ説明スル
ニ至テハ恐ラクハ誤謬ノ見解タルヲ免レサルヘシ千八百
四十九年北亞米利加會議ニ於テ創メテ「其宗教ヲ以テ人民
ヲ支配スルモノト説明スル所ノ法律ヲ置ク」ヲ禁セリ蓋
シ之レヲ禁シタルモノハ國士ニシテ基督宗教ヲ信心スル

ノ功德ニ由リ其魂魄ヲ化セラレタルト否ルトハ更ニ國家
ノ安寧上ニ於テ利害ノ影響ヲ及ホスコトナシト考定セシ
ニ職トシテ是レ之ニ由ルニ非ス將タ基督宗教ノ教會ヲ
保護シ殊ニ德義ヲ誘導スル國家ノ義務ヲ免カルヘシト考
定スルニ惟レ由ルニモ非サルナリ

蓋シ此ノ新主義ハ別ニ精確ナル原因ノ存スルアリ其原因
トハ何ツヤ曰ク宗教ヲ信仰スルコトハ固ヨリ國家ノ教唆
ト東縛ヲ受クヘキモノニ非ス唯タ本心ノ歸向スル所ニ任
ヒサルヲ得ス故ニ基督教ヲ信セサルモノヲ脅カスニ政署
ノ禍害ト權利ノ減少トヲ以テ北亞米利加人ハ嚴ニ國家ト教會ノ兩
タレハナリ是ヲ以テ北亞米利加人ハ嚴ニ國家ト教會ノ兩
領地ヲ分別シ一方ニ於テハ國家ニ關シ可成的ノ自由ヲ保

セシメ又一方ニ於テハ教會ニ向テ可成的ノ自由ヲ有セシ
 一チ熱望セリ此意旨ニ基ツキ其何人タルニ論ナク籍令ヒ
 何等ノ宗教ヲ奉スルモ果シテ政界上ノ義務ヲ執行スルニ
 適スルノ人物ナリト見認メラル、トキハ須ラク參政權ヲ
 保有セシムヘクシテ之レヲ禁止ス可キモノニアラストセ
 リ

佛國ニ在リテモ亦タ其大革命ニ依テ上文同様ノ原則ヲ採
 用セシト雖モ自ラ其起因ヲ異ニシ信教ハ本心ノ自由ニ任
 スヘシトノ單純ナル顧慮ノミニ出テタルニ非ス其起因ス
 ル所ハ他ナシ當時宗教ニ於テ逆戻ノ處置ヲナシタルヲ見
 聞シテ痛ク往時ノ輕忽ナル處業ニ懲瑟シ自ラ基督教制ノ
 暴逆ナル一チ怨恨スルノ感情ヲ發シ輿論ノ歸スル所竟ニ

宗教上ノ罰責ヲ非理ナリトシテ之レヲ排付セシモノ主ト
 シテ之レヲ採用スルノ因由ヲ成シタルモノナリ

獨逸國ニ於テモ亦タ同主義ヲ取り千八百四十八年ノ動搖
 以來一層甚シキ情勢ヲ成シタリ千八百四十一年獨逸國憲法
 第一章并ニ千八百五十年ノ李滯西憲法ハ彼ノ「フランクホ
 ルト」及ヒ伯林ノ兩府ニ於テ制定シタル獨逸國憲法草案ト
 宛カモ其符節ヲ合セシカ如ク左ノ正條ヲ明示セリ「私權及
 ヒ國士權ヲ得ル一ハ宗教信仰ノ如何ニ關セサルヘシ」ト之
 レニ加ユルニ國士ノ職務ハ宗教ノ信仰如何ニ因リテ一ツ
 モ其毀傷ヲ受クルコトナシ」ト

右ニ記載スル處ノ國々ニ於テ右ニ公認セラレタル原則ニ
 因リ從來猶太宗徒ヲ疎外スルノ舊習ヲ一變シ更ラニ自由

六二一

ノ位地ヲ與ヘラレタリ嘗テ獨逸國ニ於テハ猶太宗ノ者ハ
 殆ント國士權ヲ得ルモノナカリシト雖モ今ヤ猶太宗徒ナ
 ルカ爲メニ彼ノ國士權ヲ禁スルコトノ舊例ヲ取ルコトヲ許サ
 ス
 然ルニ新主義ハ未タ全ク一般普通ノ實行ヲ見ルノ場合ニ
 至ラス現ニ羅馬法王ノ管轄下ニ於テハ猶ホ舊習ニ固着シ
 依然トシテ新主義ヲ目シテ迷誤ノ見解ナリトシ務メテ之
 レヲ阻碍セリ是レニ由リテ「クレルス」ノ勢力尤モ盛ナル「カ
 トーリーキ」國ニテハ專ラ新主義ヲ否斥シ或ハ不充分ニ之
 レヲ保有シ就中那威及ヒ魯國ノ如キハ猶未タ新主義ヲ採
 用セス瑞西國ニテハ千八百六十六年ノ憲法ニ依リ始メテ
 基督信仰ノ如何ハ政權ニ關係ナキコトヲ説明シ英國スラ嘗

テ非國教及ヒ「カトーリーキ」宗ノ者ヲ黜ケシ所ノ制ハ今世
 ニ到リ等シク之レヲ廢止シタリト雖モ右ノ新主義ハ酷ハ
 ダシキ制限ノ内ニ繫カレテ不充分ナル勢力ヲ得タルノミ
 近今ノ國家ハ人道ト天理ニ據リ何宗ノ信仰者タルニ拘ハ
 ラス共存公立ノ主義ニ一和シ而シテ漸チ進テ將サニ中古
 ノ遺制タル或ル宗教ノ約束若シクハ教會ノ規則ト公權ノ
 綱繆混淆ヲ解カンコトヲ務メサルハナシ是レ中古ニ異ナル
 方嚮ヲ持スル所ナリ

七二一

國士論 終

跋
自然室

爲政之要在察世運如何以爲之施
設而已近時我邦人文漸進而政治
論頗盛矣要之保守與急進皆不能
無弊害也國會汎論者係獨乙國法
律博士舞理牟氏原撰其論旨確實

能得政學之肯綮焉嗚呼世之委心
於政治者參考此書以究施設之法
則其裨益豈淺尠也哉

明治十三年九月

議官從四位中島信行撰



明治十三年四月廿六日板權免許
明治十三年九月九日出版

定價金四拾錢

譯者

山口縣士族
石津可輔

出版人

岡山縣士族
西洋平

發兌

東京京橋區南鍋町
壹丁目五番地
文會舍

東京京橋區南鍋町
壹丁目五番地

賣

東京日本橋通り一丁目	北畠茂兵衛
同 通り二丁目	稲田佐兵衛
同 芝三島町	山中市兵衛
同 小石川大門町	青山清吉
同 通り新石町	福田仙藏
同 日本橋通り三丁目	丸屋善七
同 銀座四丁目	博聞社
同 尾張町一丁目	共同社
同 南傳馬町	有隣堂
同 日本橋通り三丁目	小林新兵衛
同 通油町	水野慶次郎

捌

書

同 馬喰町二丁目	石川治兵衛
同 三丁目	荒川藤兵衛
同 大傳馬町三丁目	東生龜次郎
同 横山町二丁目	内田彌兵衛
甲府常盤町	内藤傳右衛門
大坂南久寶寺町	前川善兵衛
同 心齋橋通り	松村九兵衛
西京富小路三條下ル	遠藤平左衛門
同 寺町通り松原上ル	今井七郎兵衛
備前岡山東中山下	弘文北舍
山口縣山口中市町	阿部商店

肆

工 94-72

同 萩瓦町

淡路洲本

同

野州枋木

羽前山形

越後長岡

土州高知

愛知名古屋

信州松本

讃岐丸龜

松原喜兵衛

福浦文藏

福岡虎次郎

山中八郎

五十嵐太右衛門

目黒十郎

澤本駒吉

片野東四郎

竹内禎次郎

市原金三郎

終